昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和48年1月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

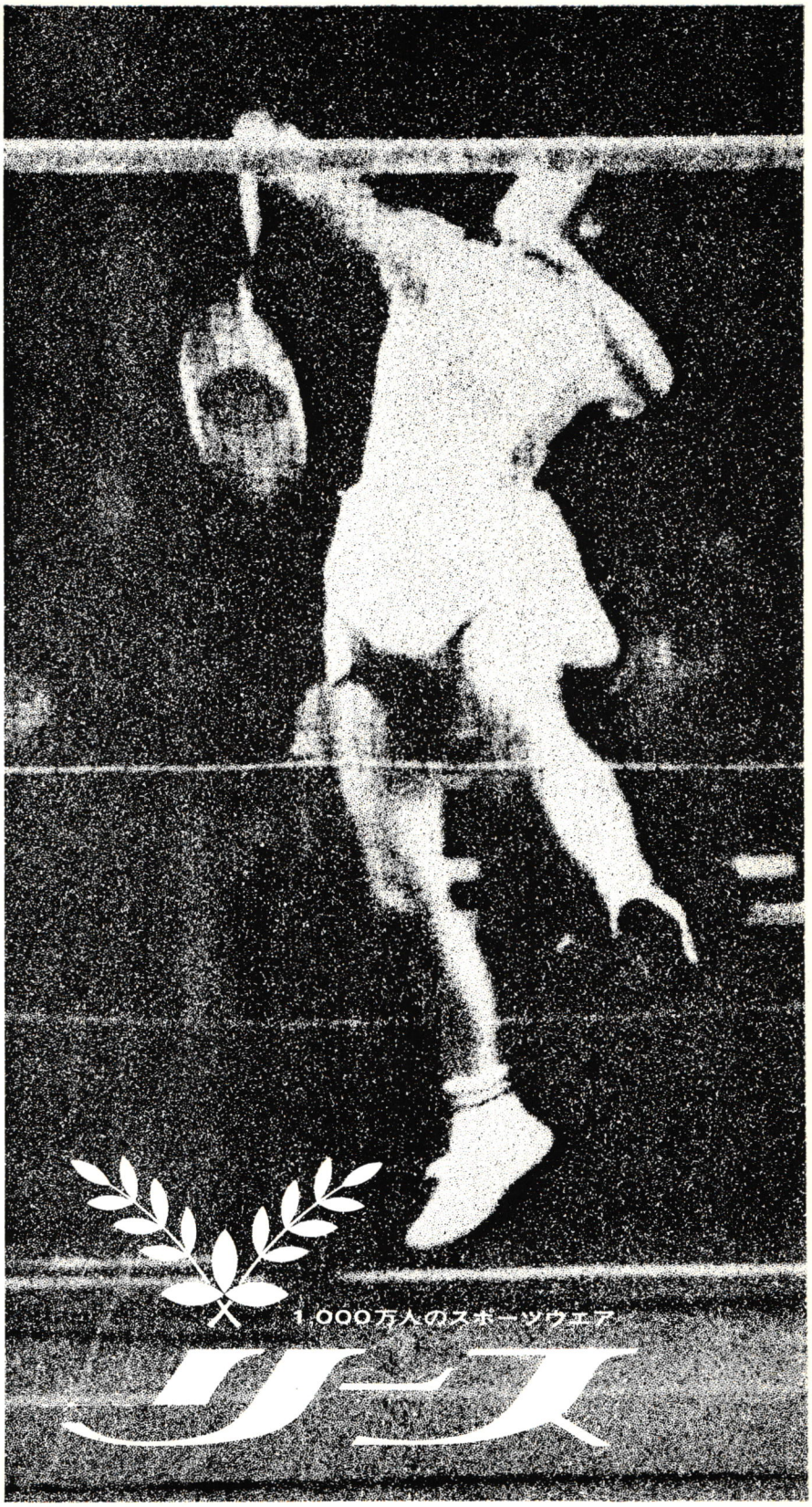
バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

41 FEB. & MAR. 1973



この一瞬!!



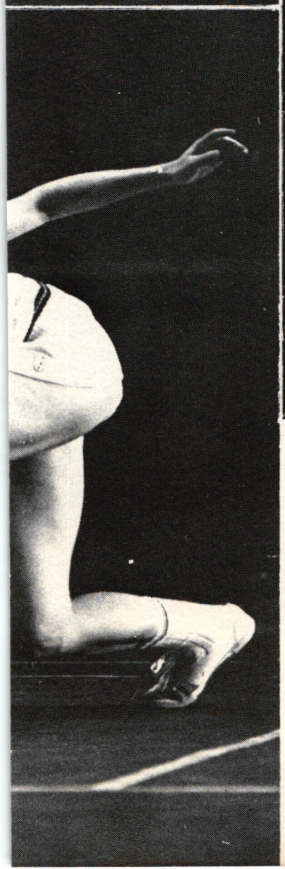
あなたはひかる――はげしい動き、ふき出す汗、すべての条件を
プレイヤー本位に満たすカワサキの〝リース〟はあなたのウエアです。

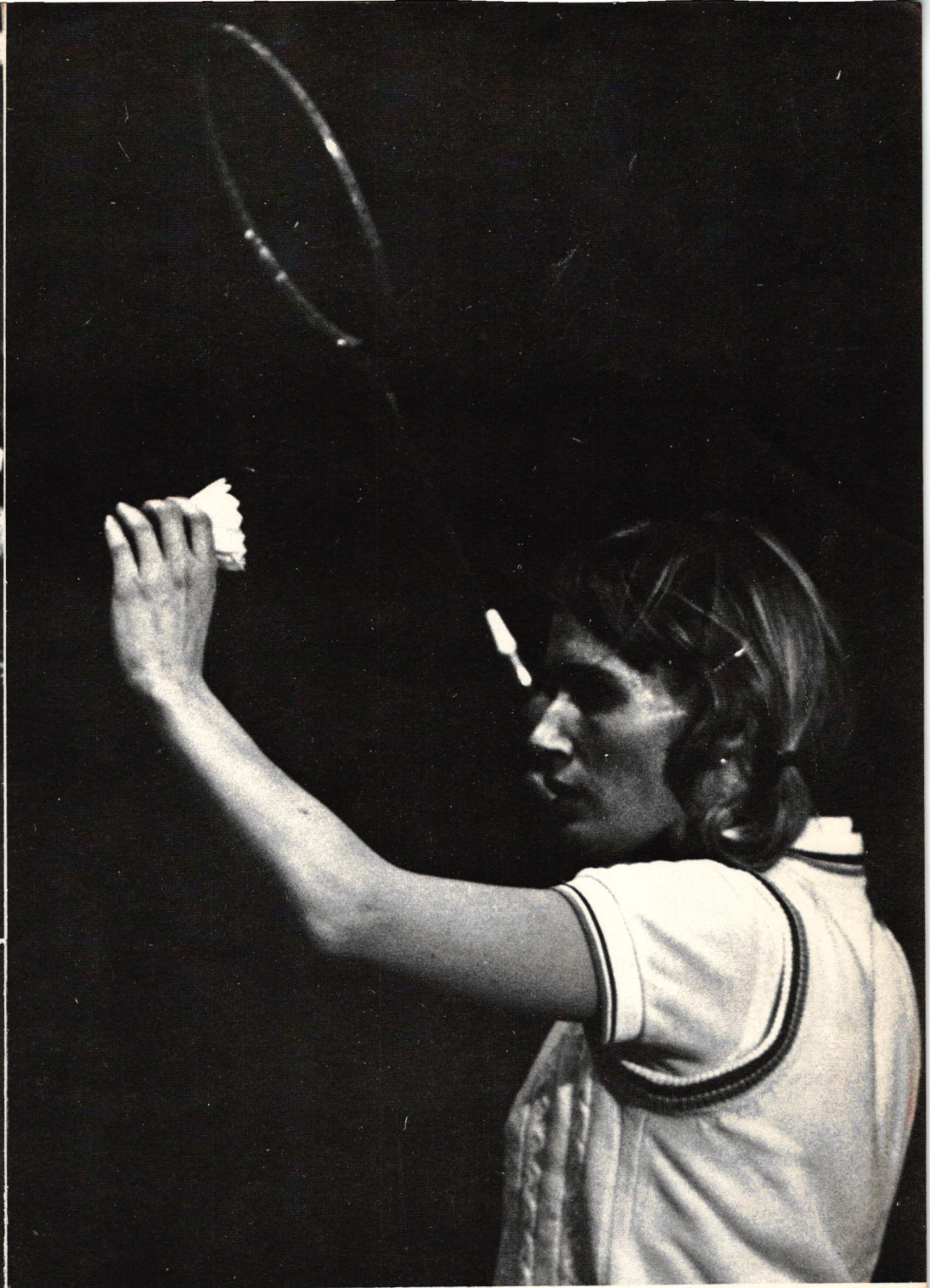
K TOKYO
河崎ラケット工業株式会社
東京都台東区台東2-28-5 電話(831)-884・0453



〝ヨーロッパの女王〟エバ・ツェドベリ夫人
（スウェーデン）







女王の〝風格〟

腰を下すと、必ず〝腕組み〟する。それがこの人を、いっそう女王らしくする。

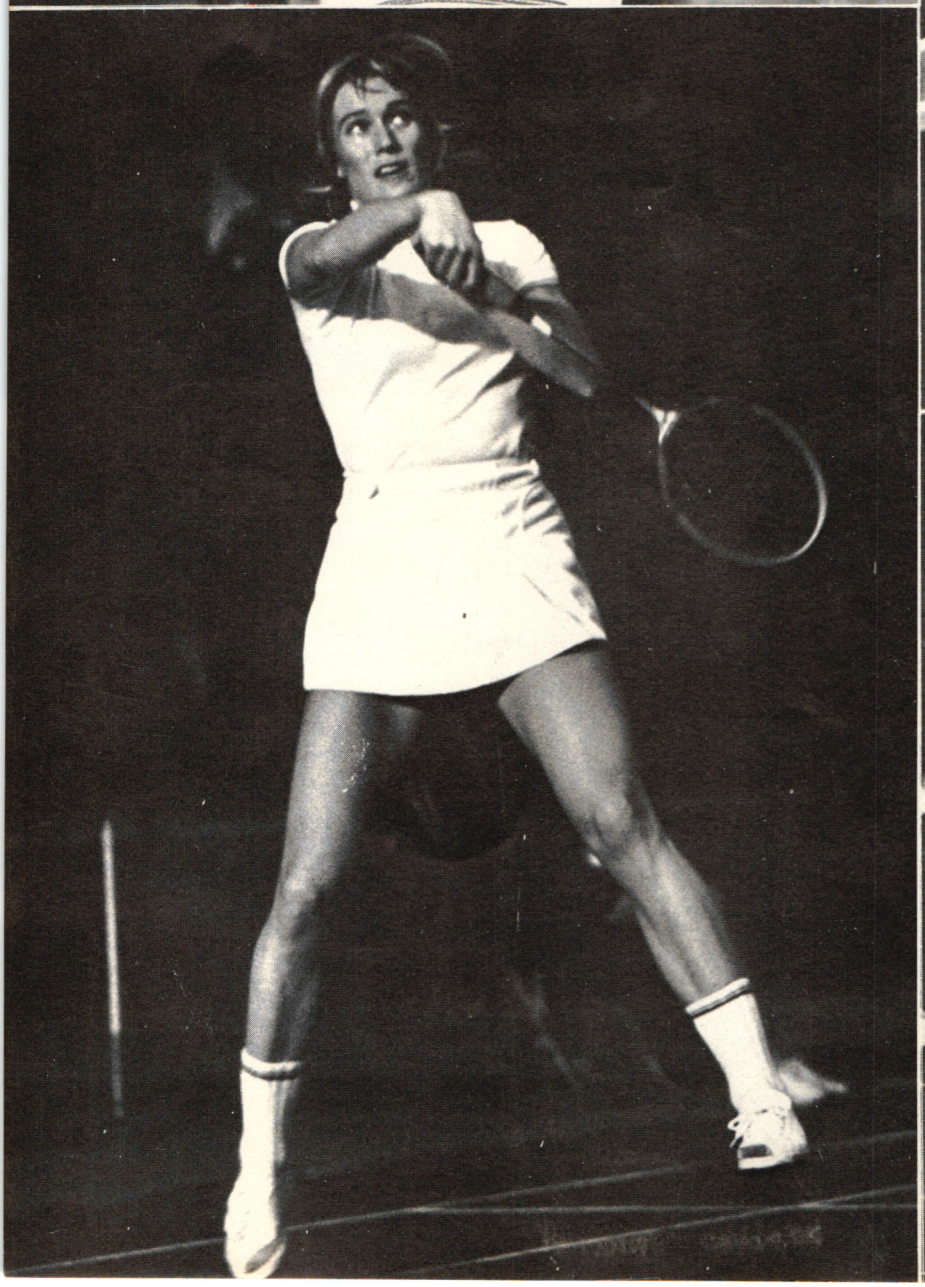
プレーにまた〝格調〟がある。オーソドックスというよりは、むしろ古典的。定石通り、クリアをきちん、きちんとコーナー深く打ち込んでいく。あせらず、しかもいささかも追う手をゆるめない。同じフォームから、時にそれがドリブン・クリアに変化して頭上を襲う。たじろぐところへスマッシュ、ドロップ。

ケレン味ない横綱相撲。おかげで5連戦した相手の湯木にも、王者らしい感じが出てきたのだからおどろく。この〝対決〟ツェドベリは1勝もせずに終わったが、敗戦は少しも彼女の〝格〟も声価も落とさなかった。

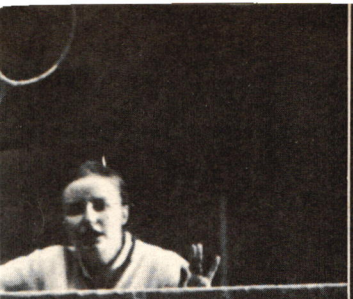
新しいロマンスを求め、英国に移住した。この夏には二度目の結婚をするとか。よくしゃべる人だが、この話になると沈黙してしまう。胸のペンダントは、内外でとったタイトル百個を記念、母国協会から贈られたものだ。



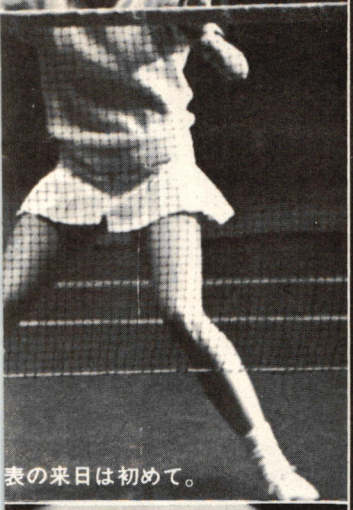






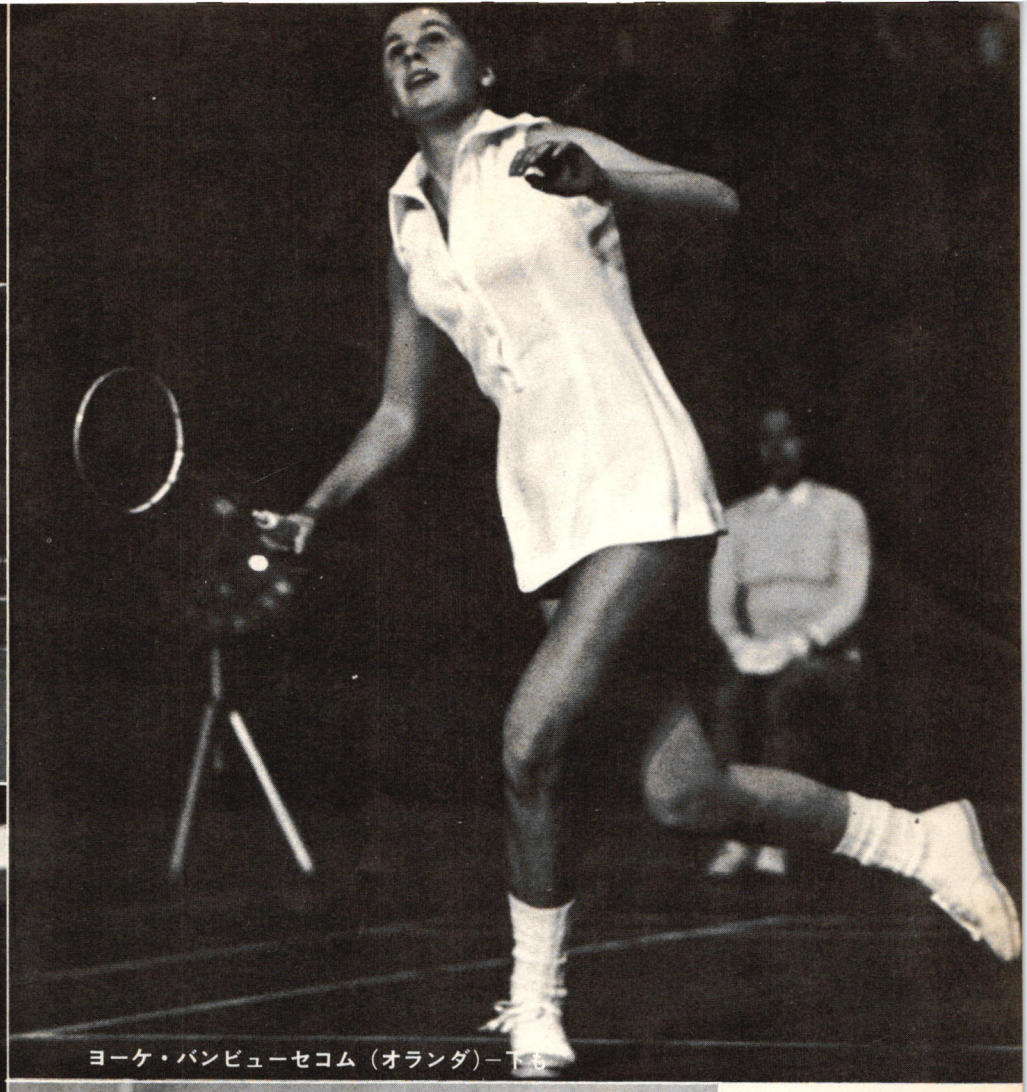


表の来日は初めて。





い女豹のようなヒトミ



ヨーケ・バンビューセコム（オランダ）一下も

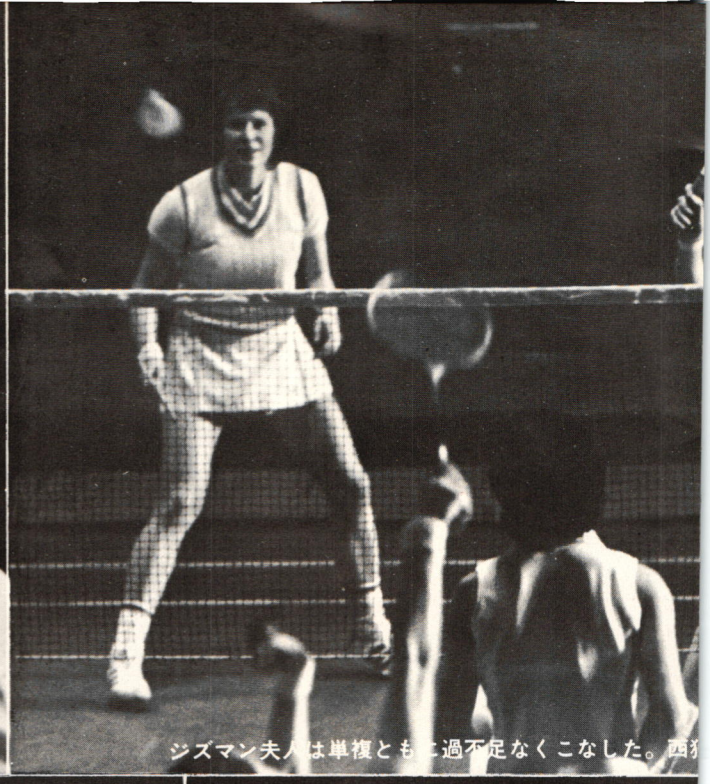
〝世界〟をねらう 若き美女たち



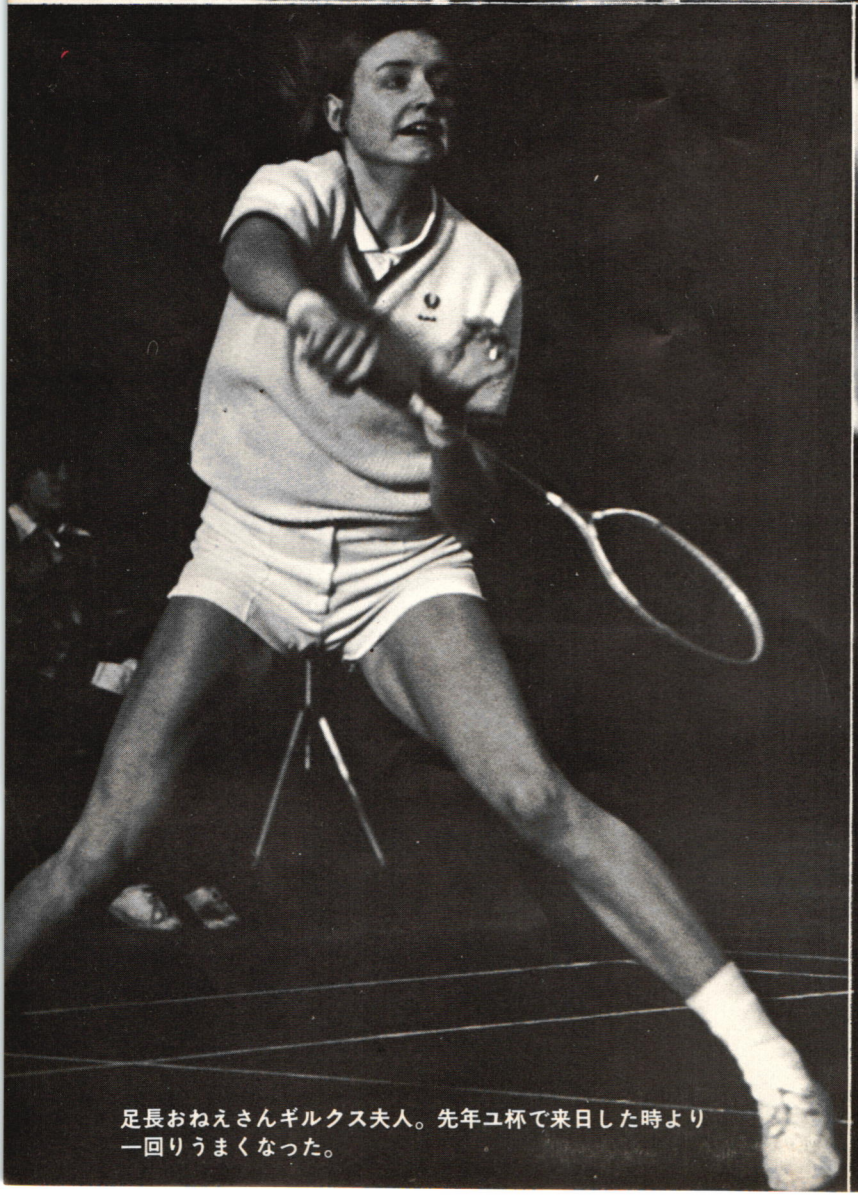
自称“ヨーコ”バドミントンが楽しくて仕方がないという



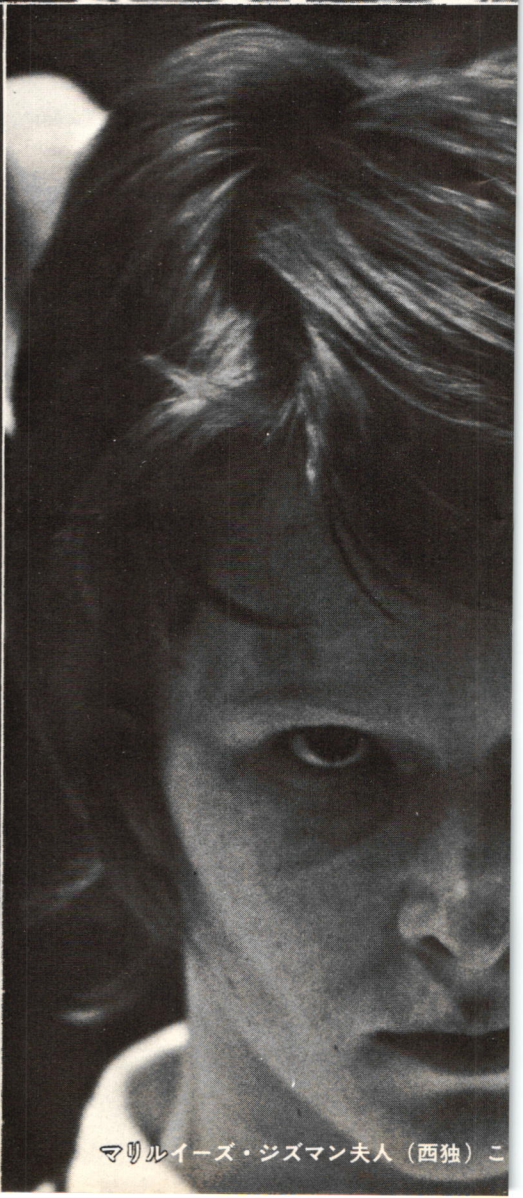
これまたキビシイ。ギリアン・ギルクス夫人（英国）



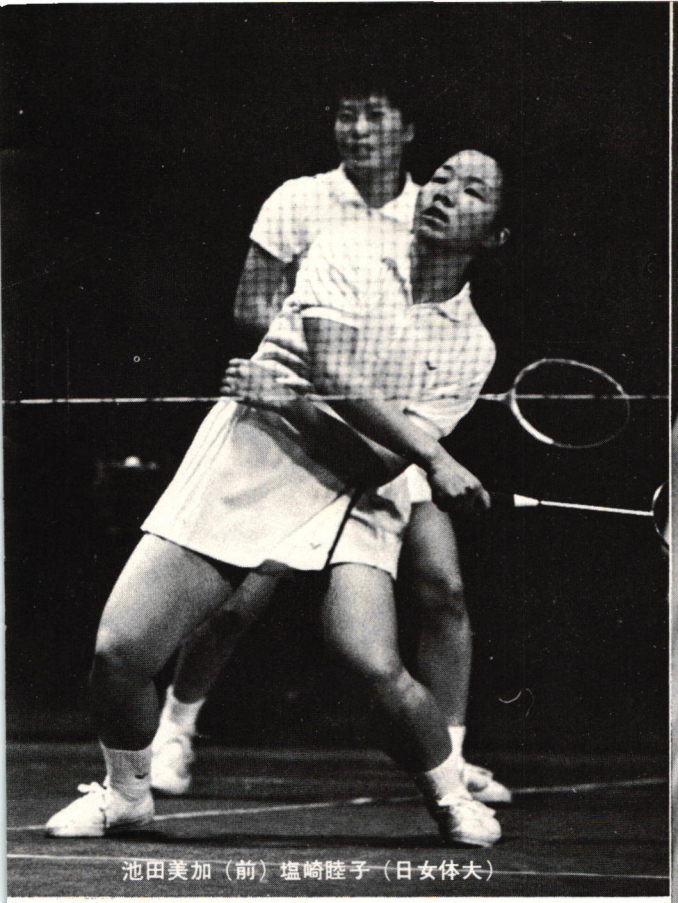
ジズマン夫人は単複ともに過不足なくこなした。西独



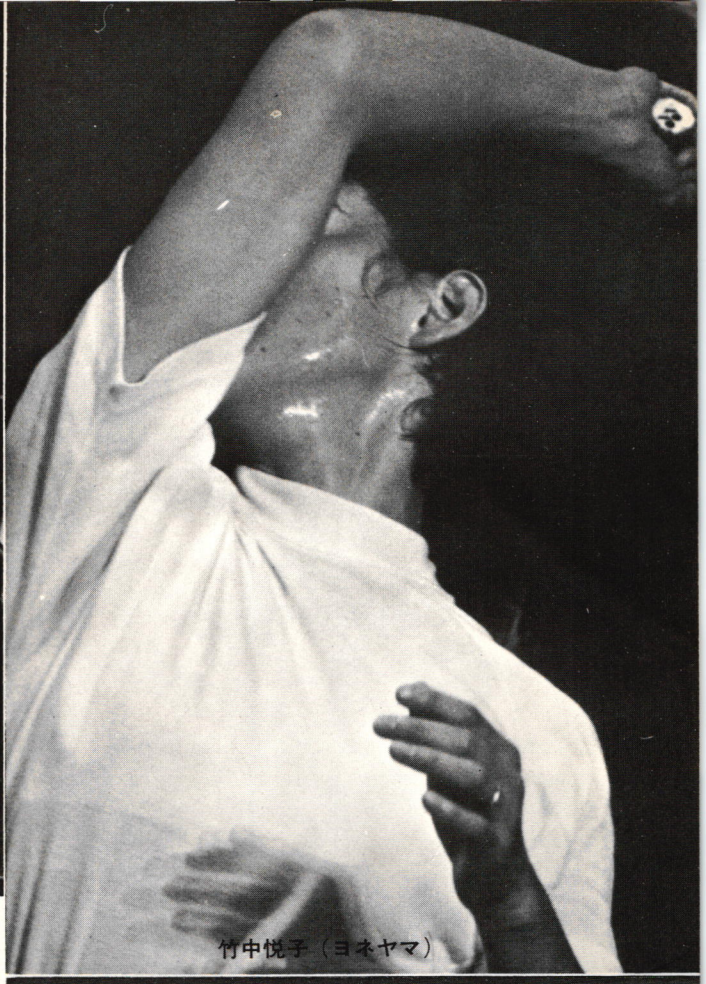
足長おねえさんギルクス夫人。先年ユ杯で来日した時より一回りうまくなった。



マリルイーズ・ジズマン夫人（西独）こ

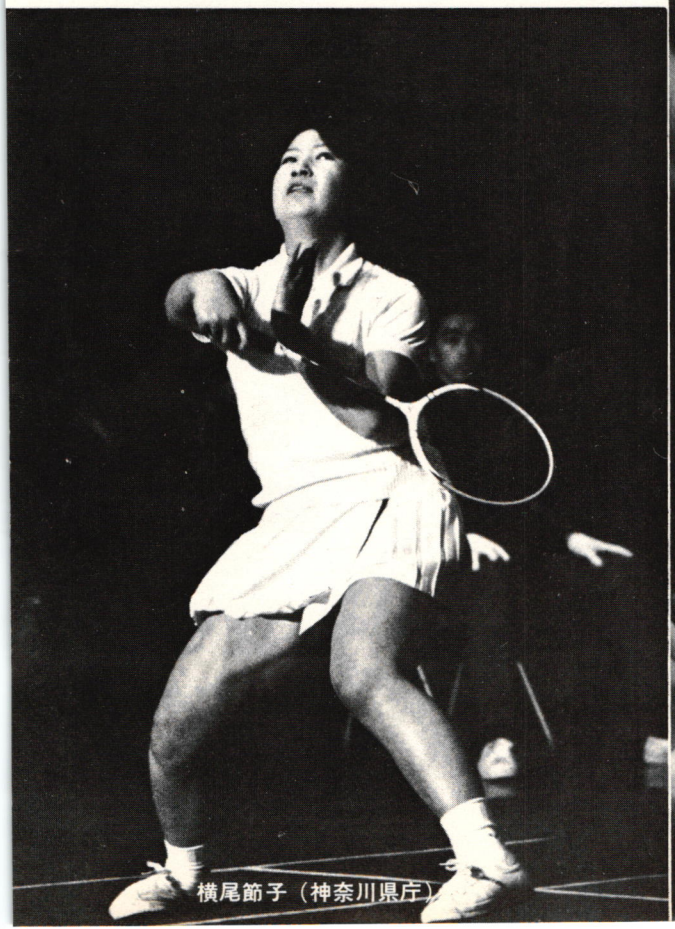


池田美加（前）塩崎睦子（日女体大）



竹中悦子（ヨネヤマ）

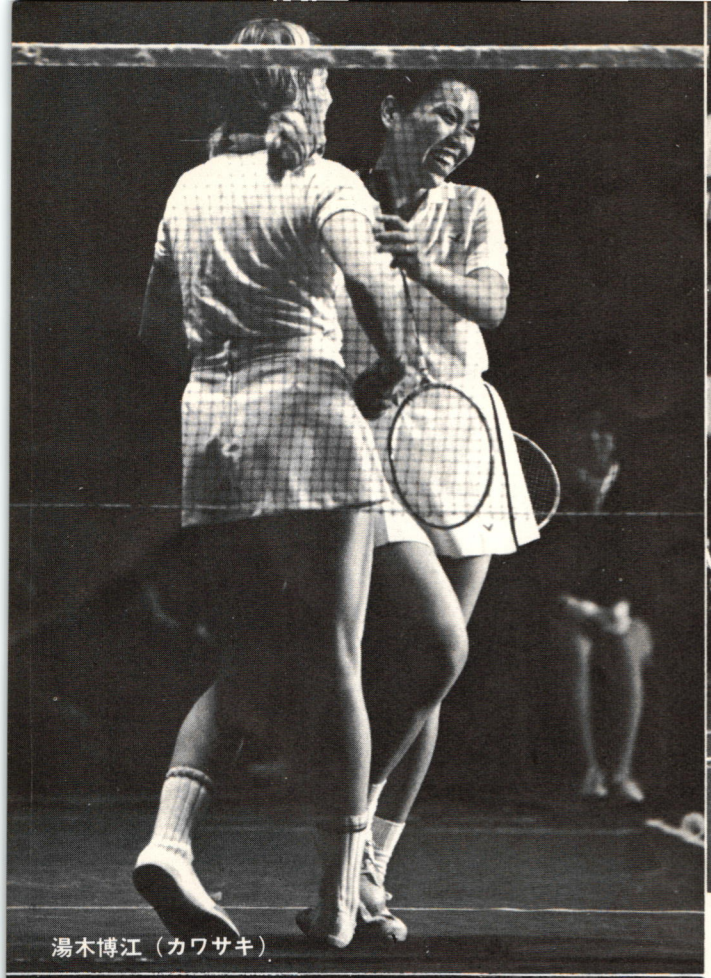
ったヤマトナデシコ



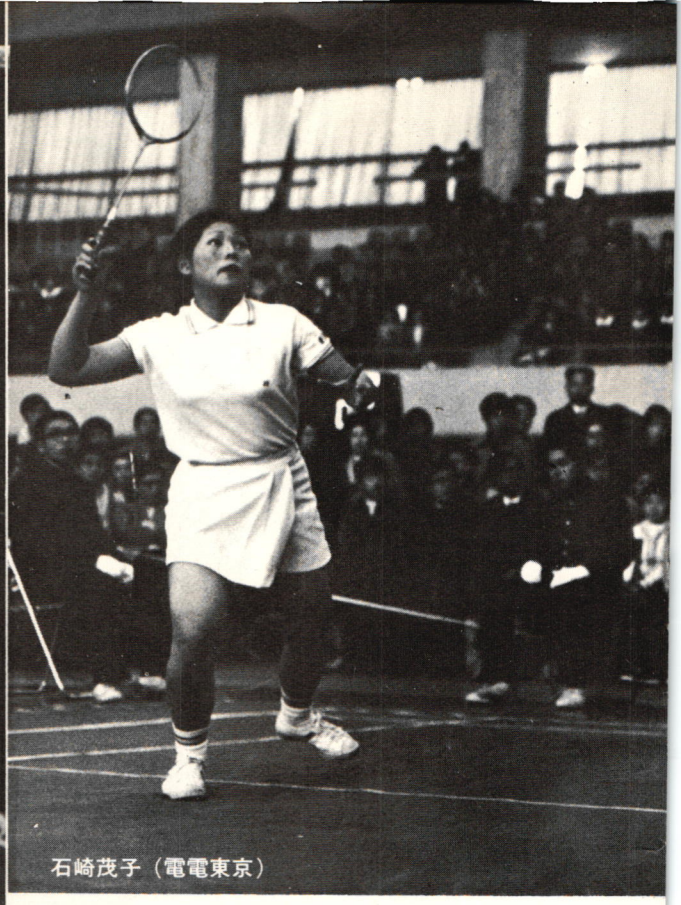
横尾節子（神奈川県庁）



相沢マチ子（ヨネヤマ）

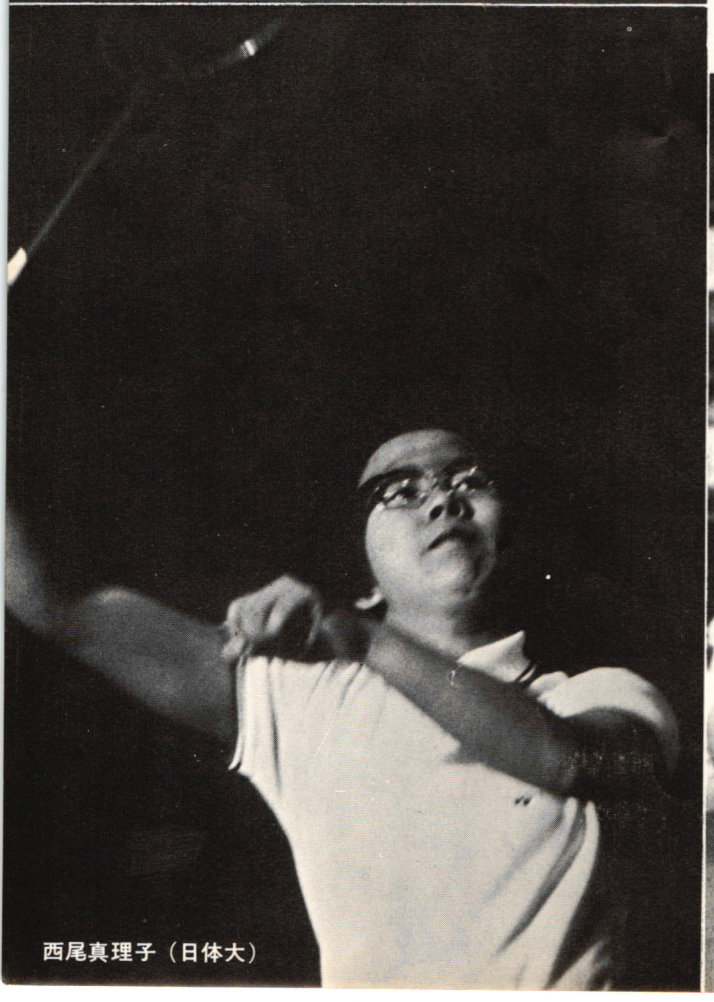


湯木博江（カワサキ）

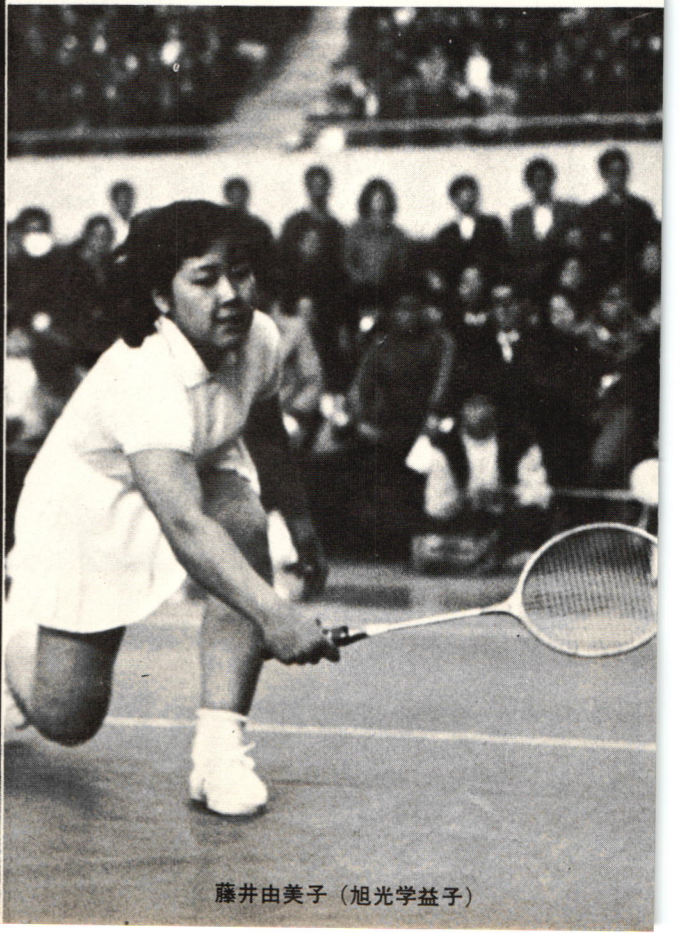


石崎茂子（電電東京）

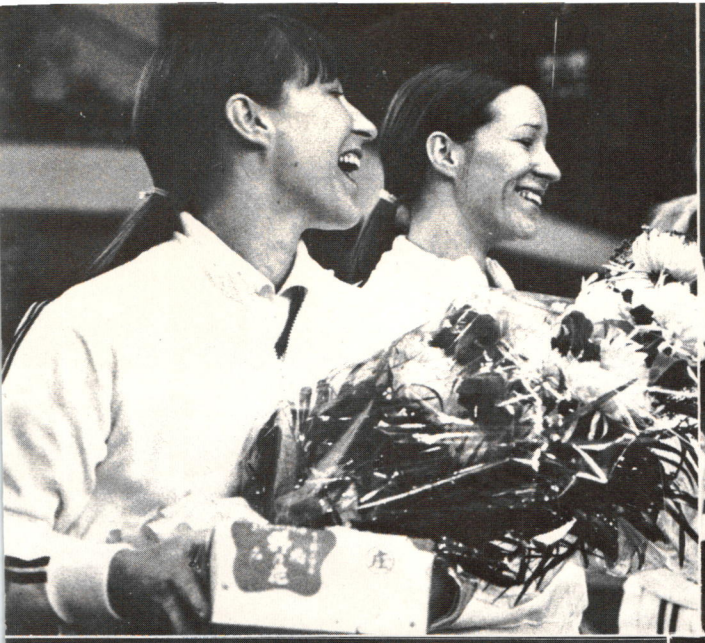
“女王国”の面目守



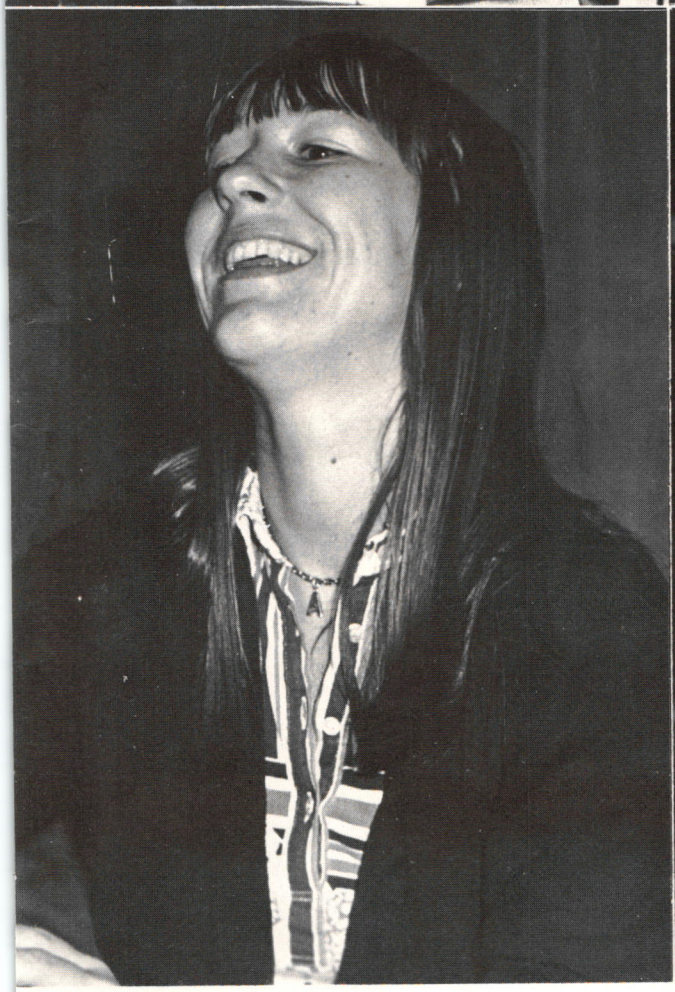
西尾真理子（日体大）



藤井由美子（旭光学益子）









双子のフリント

どちらが姉さん?と聞くと「イニシアルで判断して」と切り返してきた。アンとベントのフリント姉妹。頭文字がAのアンが姉さんにきまってる、というわけだ。ご両親なかなかイキな人らしい。

日刊スポーツ町田記者の記事によると——

「神戸牛のレストランに連れてってもらうの。それからエー、もうギンザの夜のことを考えると胸がワクワクしちゃうわ」初来日のベントはもう楽しくて仕方がない。かたわらでダダッ子をあやすような目付きでアンがうなずく。白いトレーニングシャツに身を包んだアン、ベントの二人はデンマークの一卵性双生児。ポニーテールの髪形まで同じ。落ち着いて話をする方がアンだと気がつくまで、しばらく時間がかかったほどだ…。

とある。そこで〝見分けやすいように、アンの方が前髪をたらすことにしている。二人並んだ二枚の写真、いずれも姉の方が大きな口をあいている。陽気。妹はいくらか控えめだ。身長、体重もちろん同じで166㌢、55㌔。「今季限りで引退のつもり」という。



バドミントン界

〈48年2・3月合併号〉

【特集】第2回女子国際競技会

◇第1戦（東京）……10
・女王の戦い湯木が先手
・開幕戦を見て
◇第2戦（横浜）……12
・「北極だわ」欧州勢あえなく敗退
・一卵性双生児のペアもお手あげ
・即席でも力をフルに発揮―欧州のダブルス
◇第3戦（岐阜）……14
・欧州やっと本領発揮
・〝世界ペア〟またも苦杯
・たくましく変身、欧州勢
◇第4戦（宇都宮）……18
・相沢・竹中組最悪の事態に
・ホープ西尾だいまがんばってます
・私の未来は〝世界の女王〟
◇最終戦（東京）……20
・日本〝女王〟の面目死守
・初出場で4戦全勝、新星・池田が大きく飛躍
◇特別よみもの
・これでよいか〝HOW TO SERVE〟……16
・一挙に吹飛んだ苦労―裏方の告白……17
・先輩たちは、戦いをこう見た……22
◇写真グラフ
・ヨーロッパの女王、ほか……1
・フォート・ダイアリ〈48・1・25～2・7〉……33
〈北から南から〈お正月の遊びも洋風化の一途〉ほか……24
・レコード……29
・編集室……27

スタッフ／表紙撮影・松井亮麿／同製作・小浜正道／グラフ写真ほか・山田真市／編集・明本薫、秦浩／庶務・本島道子／協力・日本協会事務局、各加盟団体関係者、愛読者

が先手

竹中組は苦杯

日本選抜3（単2―1 複1―1）2欧州選抜

◇シングルス

西尾真理子（3―11 6―11）ギルクス○

○竹中悦子（11―2 11―12 11―4）バンビュ―セコム

○湯木博江（11―2 4―11 12―10）ツェドベリ

◇ダブルス

池田美和 ○塩崎睦子（18―16 18―16）フリント姉妹

相沢マチ子、竹中悦子（17―18 15―12 7―15）ギルクス○ジズマン

評　ユ杯の3連勝以来、半年ぶり日本の舞台に〝上演〟された一級品の国際競技会。日本は〝女王国〟の貫録を見せて勝ったものの、内容的には接戦の連続。予想通り〝欧州強し〟の印象を濃くした。

圧巻は3試合目に登場した湯木×ツェドベリ戦だった。湯木は69年、ツェドベリは68、71年の全英チャンピオン（70年は竹中、72年は中山がとっている）72年春の遠征で、湯木はツェドベリに食われており、実力は互角といえる。

はたせるかな、打ち合いはクリアを〝4角〟にたんねんに放って、じりじりと必打の好機を待つという、格調高い展開となった。第1ゲーム、ツェドベリのコートにカーテンのすき間から西日がさしこみ、とまどっているうちに、湯木リード、押して打ち、はたいて打ち、ゲームを先取した。

第2ゲーム、ツェドベリに当



さすがはNO1湯木選手の気力

ヨーロッパと日本との試合を観戦して、まず最初に感じたのは外国選手の背の高さです。日本の相沢、竹中選手でさえ、彼女達と並ぶと、あんまり目立たないという事実でした。

やはりお国柄がそうさせるのか、ヨーロッパの選手はとても愛想がよく、表情も日本選手に比べてユーモラスでした。さすがヨーロッパ・チームは各国から選ばれてきた強豪のチームだけあって、ユーバー杯とは違ったおもしろさを見せてくれました。でも、日本は〝女王の座〟を持っているだけに、負けられない試合だったのではないでしょうか。

外国選手はほとんどがミセスであったのに、日本側は常連の湯木・竹中・相沢選手のあとに学生陣がそろそろ姿を見せ始めたところです。女子の〝壁〟は厚いといわれるこの世界、追いつき追い越されの中で、這い上って来ようと思えば、並の努力ではないことを、つくづく感じさせられました。

試合の中で印象に残ったものは湯木選手とツェドベリ選手のシングルス3ゲーム目です。9対1でリードしている湯木選手を1点、1点追い上げていくツェドベリ選手。背の高い外国選手特有の、高い打点からの攻撃。

開幕戦を見て

四条畷学園高二年　徳田敦子

湯木選手のフォア側に落ちるスマッシュ、カットがよく決まっていました。

9オールでセッティングに持ち込まれ、結局、湯木選手が12―11で勝ちました。この時の湯木選手の精神力の強さ。技術や体力だけでは勝てないという女王の貫録を見せてくれました。

やはり見ていておもしろいのはダブルスの方でした。ほとんどがドライブとスマッシュの応酬で、動きが速く、特にギルクス選手の前衛のタマさばきには目を見張るものがありました。

こんな試合を見ていると、まだまだ自分のあらゆる面での未熟さを身にしみて感じます。ここに出られた選手の皆さまがたは、それを乗り越えて来られた方達ばかりでいらっしゃると思います。

競争の激しい日本のバドミントン界、私に課せられた道はまだまだ長いものだと思います。私達の時代が、いつ来るかもわかりません。が、でも今はただ「努力」という二字に一生懸命がんばっていきたいと思っています。（筆者は47年全国高校選手権単第2位、複1位）

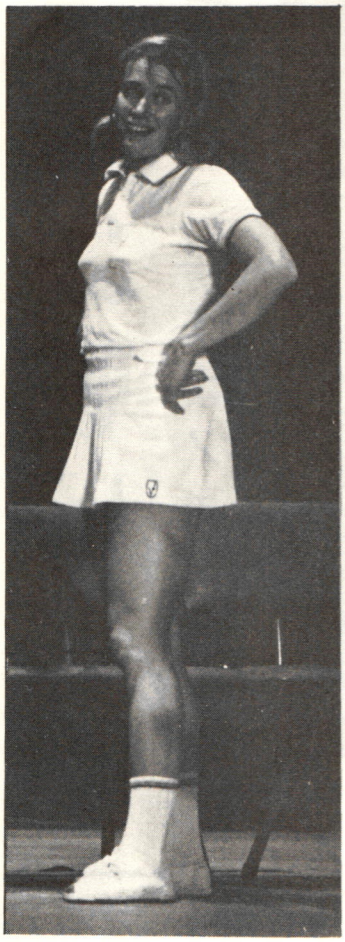
「女王の戦い」湯木

日本，緒戦を飾る…“世界ペア”相沢・

早くも火花、全英の前哨戦

5戦シリーズ白熱のスタート

◇第1戦　1月28日正午（観衆二千五百）
東京・国立代々木第二体育館


湯木ツェドベリ

りが出た。クリアは重く速く、同じようなフォームから一球ごとに微妙な変化を持たせて攻める。とくに攻めダマをつくるためのドリブン・クリアに威力が見えた。ファイナル湯木9―0からツェドベリ10―9と逆転、場内をわかせたが、ここで油が切れた。湯木これを見てショート・サービスに切り換えたヘッドワークが光った。

先陣西尾が長身ギルクスの高い攻めに、守りに追われたのは初戦でやむを得ないところ。第1複の池田・塩崎組は、やはり初の外人相手で苦しみながら粘り勝ちした。だが〝世界一〟のペア相沢・竹中組はカタなしだった。

竹中が単で苦戦しており、危い、と思われたが、やはり予感が当たった。ギルクス、ジズマン即製とは思えぬ見事な前陣のタマさばき・打球への反射が日本より一瞬早く、これが明暗をきわどく分けていた。

金髪、男のように大またでとぶ三十歳のツェドベリ。黒髪、野性のたくましさを感じさせる湯木。最終ゲーム、湯木が豪快なスマッシュや巧みなドロップショットを決めて9―0とリードすれば、ツェドベリも捨て身のゆさぶりをかけて追い上げ、連続10点をとって逆転、観衆にタメ息をつかせた。

バドミントンの個人世界一は全英選手権の覇者ということになっている。ツェドベリは六八年、七一年のシングルスに優勝して女王となり、湯木は六九年の女王。昨年チャンピオンの中山紀子さんが出産のためコートからしりぞき、インドネシアのミナルニも引退した現在、ことの女王はツェドベリ、湯木の間で争われそう。三月ウェンブレーで開かれる全英の前衛戦の意味をこめて、コートに目に見えない火花が散った。

「負けるかもしれない。だがここで負けてはダメ。食い下がろう」逆転されたとき、湯木は自分にいい聞かせたそうだ。ツェドベリとはこれまで2勝2敗。日本バドミントン協会は全英2連覇の願いを湯木に託し、この国際シリーズでライバル、ツェドベリと5連戦を組んでいる。ヒタイの汗をふき、勝負に出た湯木。しかし最後はあっけなかった。あせったツェドベリが、たてつづけにミスを犯したのだ。試合は再びひっくり返った。

「エバはいつもの気迫がなかった。が、全英では一番の強敵です。このシリーズ、ぜひ勝ち越してコンプレックスを持たせてやりたい」選手歴十二年の湯木は息をはずませていた。

一方、十六歳で国際代表になっているツェドベリは、腕組みをしながら、こういった。「日本へ来たばかりで時差に慣れない。睡眠不足で調子はさっぱり。ユキは最大のライバルだけど、まあ、これからのシリーズをみてごらん」。世界の巨峰といわれる貫録がにじみ出ている。

〝世界一の座〟奪回をねらう元女王同士の争いは、湯木が一歩リードした形で国際シリーズの幕をあけた。（サンケイ新聞）

日本、第2戦は完勝

新鋭西尾も白星　湯木はツェドベリ連破

"北極だわ" 欧州勢あえなく寒さ負け？

太モモに食い込むようなホットパンツと豊かな胸で、来日以来すっかり人気者になったバンビューセコムが、最後まで長そでのセーターと長いトレパンをぬごうとしなかった。

若い西尾にひねられたジズマンも「こんな寒い体育館で試合したのは初めて」と不満そう。来日メンバーのうちでは、ツェドベリ、ギルクスについで強いといわれたジズマンが、西尾のドロップ・ショットにまったく手が出ないとは、ちょっと考えられない。前日の熱戦が信じられないような凡戦が続く。

湯木―ツェドベリの第三シングルスだけは、前日同様、好試合だったが、ツェドベリにもう一つ、前日のようなコントロールがなく、第二ゲームの途中、右モモの筋肉を痛めて最終ゲームはあっさり湯木の勝ち。

寒いから観客も競技に集中できず、なんとなくざわついて拍手も少い。スタンドから「冬季競技じゃあるまいし、暖房はどうしたんだ」という声も出た。

大会を主管した内藤安雄大会競技委員長は「暖房費を節約したのではありません。試合中に暖房すると、熱風が吹き込んで空気の対流が起こり、シャトルが流されてダメなんです。かといって、試合直前に切ると、一時間で元に戻って、かえって寒さを感じさせるそうです」と釈明する。

わずか5グラムのシャトルを扱うこの競技、確かに風は禁物で、インドネシアでもシンガポールでも、真夏に冷房を切って試合するのが通例だ。だが、前日の東京大会は、試合前三時間、暖房をフル回転し試合開始後は観衆の入いきれに保温をまかせて成功している。

毛皮のオーバーにくるまってふるえながらも、外人選手たちは、あからさまには文句をいわなかった。5―0とワンサイドのスコアが彼女たちの無言の抗議だろうか。

外人にいいプレーをさせて、その技術を日本の若手が吸収するのがこの大会の目的だったはず。もったいないことをしたといわねばなるまい。（読売新聞）

シャトル

日本選抜5（単3―0 複2―0）0欧州選抜

◇シングルス

○西尾真理子 11―7 11―1 ジズマン

○横尾節子 9―11 11―7 11―3 バンビューセコム

○湯木博江 11―8 5―11 11―5 ツェドベリ

◇ダブルス

相沢マチ子、竹中悦子 15―3 15―8 フリント姉妹

○湯木博江、池田美加 7―15 15―11 15―4 ギルクス、ジズマン

評　西尾、横尾ががんばり、日本が完勝した。もっとも、館内の寒さ、来日以来の疲れで、欧州勢が本領を発揮したとはいえず3戦目以降の〝星勘定〟は楽観を許さない。

トップ西尾は第1ゲーム4―6から、落ちるタマをうまく使ってジズマンを前に誘い、6点連取で逆転。2ゲーム目も乗り切った。ただ第1ゲームのゲーム・ポイントからあと一本を9度も逃げられたのは〝若さ〟か。横尾はバックに弱さがみられたが、相手がペースに乗らぬうちに強打と軟攻を織りまぜてゆさぶったのが成功した。相手の高さに憶しなかったのがいい。

〝女王対決〟の2戦目は、また堂々と四つに組んだ〝横綱相撲〟ただ、ツェドベリのコントロールが意外に悪く、何球もかけて押しながら最後、長打をミスした。この差がスコアとなり、湯木ゆうゆうと勝った。

ダブルス相沢組が前日の汚名を回復したあと、同門の先輩後輩で組んだ湯木組は、第2ゲームから湯木が後で攻めの主導権を取り、若い池田を生かした。

◇第2戦　1月29日6時（観衆二千）
神奈川・横浜文化体育館

〝一卵性双生児〟のペアもお手上げ

日本の美人コンビ「竹中・相沢」とデンマークの双生児コンビ。「互角の勝負」というのが関係者の予感だった。ところが、フリント姉妹は動きが悪い。美人コンビのスマッシュに手が出ない。はじめのうちは顔を見合わせてはニコリと笑いながら励ましあっていたものの、点差が開くにつれ、二人の顔はひきしまった。



羽田に着いたときは，こんなに陽気だったが…

双子の〝看板〟は息の合ったコンビネーションのはず。それなのに足並みがなかなかそろわない。姉のスマッシュがきれいに決っても妹は笑いもしない。

ごきげん斜めのお姉さん。試合が終わると一人でさっさと控え室へ。妹にうながされて記者会見。やっと二人に笑顔が戻ったが「ここは寒くて寒くて…全然、動けなかった」とこぼす姉

二人は15歳のときからバドミントンを始め、10年近くコンビを組んできた。この間、デンマークとオランダの大会などで優勝している。だが、五年前に妹が病気してから、一時コンビを解消した。

「今度の日本行きで、また妹と組むことになった」そうだ。さすがの双子も五年近いブランクですっかり呼吸が乱れたのか。これで2連敗だ。

妹のB・フリントは「もう一人、子供がほしいので、バドミントンはこれで終わりです。」ともに主婦。この四月で30歳になる。日本での試合が〝サヨナラ公演〟では、全日本のタイトルを持つコンビに歯が立たないのも無理はない。**（朝日新聞）**

○…「勝っちゃったなんてどうしたんでしょ。フフフ」横尾節子嬢、おかしそうに笑いくずれた。地元の期待をになって初の国際舞台へ出場、初勝利。長身の外人はタテの動きに弱いことを知って、うまくゆさぶったのが成功した。

平塚商―日女体短大―神奈川県庁（横浜県税事務所）と歩んで21歳。スマッシュが得意で、全国的大会のタイトルはないが昨秋の全日本実業団3位に入った。「いい試合をしよう、点だけはとろうと思っていたが」こう説明すると、また勝利を思い出し笑い、ニヤニヤとした。

即席でも力をフルに発揮

欧州勢〝クラブのつき合い〟で慣れ

「へえ、あれが即席だって」最終試合のダブルス。ギルクスジズマン組が登場したとき、観客席から、こんな声があがった。英国人とドイツ人。このペアは前日に世界タイトルを持つ相沢竹中組を破ったあと「練習は三十分やっただけよ。もちろん初めて」と、こともなげにいっていた。

欧州勢のダブルスはなぜうまいのか。「欧州に限らないが、それはクラブ制度のせい」というのか、日本関係者の一致した見方だ。

「クラブにはいろんな人がいる。一種の社交場だし、一人でコートを専用するわけにもいかない。当然、練習でもダブルスが多くなる。だから、外人にとってはこのダブルスは〝お願いします〟とプロポーズする社交ダンスみたいなもの」と日本協会の村山事務局長。バン・ビューセコムも「そのとおりよ」とこの説を肯定した。

片や日本。環境の違いもあって、いいダブルス・ペアをつくっていくのが難しい。学校の運動部では同じ相手と組む年限も限られているし、好きな相手と勝手に組むわけにもいかない。それに二言目には「気心を知らなければイキが合わない」と相手にこだわる傾向がある。

しかし、日本が長く世界の王座を保持していくには、ダブルスを特別視してはダメ。ユ杯にしても、ト杯にしても、4試合（2組）のダブルスがある。

「心理的なこだわりを持たずダブルスの基本を身につけること。だれと組んでもやれるようにならなければ…。ダブルスをみっちりやると、前陣プレーがうまくなって、シングルスにもプラス」と中山紀子さん。

ト杯のコーチなどもつとめ、外国事情にくわしい村山氏も次のようにコメントした。「混合ダブルスをもっと盛んにすればいい。男子のスピードパワーにきたえられることで、女子にもプラスするはずだから」

（東京新聞）

っと本領発揮

“追いつけ，追い越せ”ムード

たくましく〝変身〟

日本式トレーニングの成果出る

「時差ボケで調子が出ないわ」といっていた欧州チームが来日以来九日目でようやく本領を発揮した。その結果が3―2で日本の初勝利。「ヨーロッパのバドミントンは、ここ数年どんどん強くなっている」という情報はどうやら当たっていたようだ。

日本にとって特にショックだったのは、昨年の全英選手権ダブルス優勝ペア（事実上の世界チャンピオン）竹中・相沢組が第一戦のギルクス、ジズマン組に次いで、この日もジズマン、バンビューセコム組にフル・ゲームの末、敗れたこと。欧州のダブルスはいずれもこの大会だけの〝即席ペア〟だけになおさらだった。

敗れた竹中はいう。「ヨーロッパのダブルスはもともと強かったのですが、わたしたちが最初に遠征した三年前とくらべるとさらに強くなっています。以前は長いリーチだけを武器に高い姿勢で、見た目にはきれいなプレーをしていましたが、このごろは日本と同様、むずかしいタマでもくいさがって拾ってきます。チャンピオン日本の影響でしょうか」

欧州の女子バドミントンを変えさせたのは、一九六七年に日本から初めて遠征した高木（現姓中山）・天野組だといわれる。スコート（競技用のミニ・スカ

“世界ペア”またも〝即席〟に苦杯

新星・池田連日の健斗も及ばず

評 主・池田が健闘、長身ギルクスの角度ある早いタッチの攻めをかわして気勢をあげたが、日本はダブルスが振るわず、欧州に白星を献上した。もっとも、天野・湯木組はベテラン天野が久しく大舞台から遠ざかっており、この敗戦は責められない。

〝世界ペア〟相沢・竹中はどうしたのか。相変わらず調子が悪い。前陣の攻防で動き遅れて押され、つなぎのストロークが甘い。そこを長身（ジズマン1969、バンビューセコム168）の相手にたたかれた。第二ゲーム、早いタッチを取り戻し竹中のスマッシュが相手ペアのボデーをしばしば襲った。これで1オール。しかしファイナルに入ると日本ペアはリズムを狂わせ、9―9からあっという間に5点を失い、マッチポイント。13―14まで迫ったが最後ジズマンの強打にセンター・ラインを抜かれた。「足が重い。疲れて」竹中は首をうなだれていた。

日本選抜2（単2―1 複0―2）3欧州選抜

◇シングルス

○湯木博江 11―5 11―3 ツェドペリ

西尾真理子 5―11 4―11 バンビューセコム○

○池田美加 12―9 11―2 11―2 ギルクス

◇ダブルス

相沢マチ子、竹中悦子 9―15 15―8 13―15 バンビューセコム

天野博江 湯木博江 12―15 15―11 10―15 フリント○姉妹



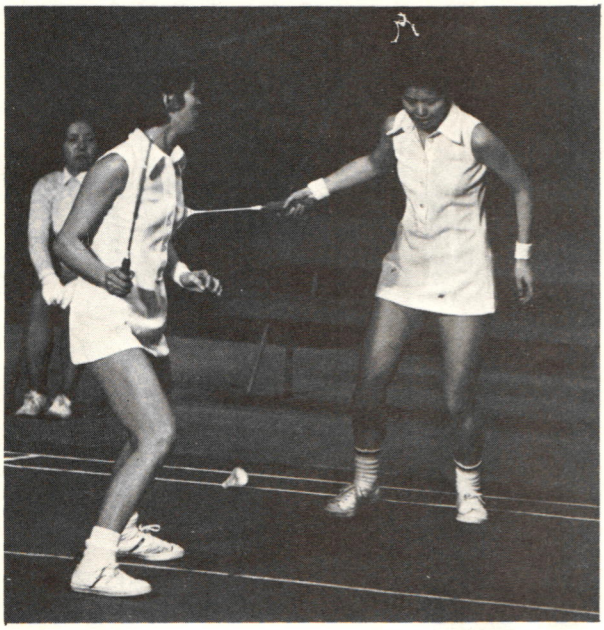
単複両刀使いのジズマン、地味だが鋭いストロークの持ち主

○…岐阜大会は県バドミントン協会の創立二十五周年を記念して開かれたもの。その一環として岐阜市長良森町、児童育成園の十六人をはじめ、山県郡高富町大桑、若松学園など六施設の中学生六十人が招待された。

○…デンマークの双生児・フリント姉妹は二月一日が誕生日宿舎の長良川ホテルで、みんなからお祝いしてもらい、上きげん。勝ったのはそのせい？

欧州や

コートはあふれる



◇第3戦　2月3日6時（観衆三千）
岐阜・各務原東海女短大体育館

ート）をひらめかし、なりふりかまわず走りまわった二人の粘り強いプレーが、昔から〝貴族の遊び〟として〝美しい〟だけのバドミントンを目ざめさせた。そして一九六九年、日本にとってユーバー杯の初防衛戦となった世界選手権東京大会が、欧米全体を目ざめさせる結果となった。

「日本は一年以上も前から強化合宿をしたんですね。欧米のバドミントンはこのままでは永久に勝てない。何とか手を打たなくては…」と、当時イギリスの監督だったマッコール氏は言い残した。そして、その反省が実を結びつつあるようだ。

四年前、マッコール監督とともに来日したギルクス（当時ペリン）がその好例。この日は池田の大殊勲で不覚の一敗を喫したが、当時にくらべると「これが同一人物かと疑うほどたくましくなった」（宮永・協会競技力向上委員）。ギルクスはその秘密を「四年前までは、練習といっても、プレーだけだったが、それ以来トレーニングに重点を置いている」と、バーベルをあげる格好をしながら、こともなげにいった。同じ強化をしたら、体格のいい欧米選手が有利になるのは当然。

明後年の第七回ユーバー杯大会は、ルールによって日本国内では開けない。ヨーロッパでやるとなれば、向こうに地元の利があり、日本には〝時差ボケ〟もある。この日の一敗が、ユーバー杯三度目の防衛を目指す日本にとって、警鐘となればいいのだが…。

（読売新聞）

あっ、また…センターを割られる時は最悪の状態。

水鳥　検定合格球
ファストゴールド
ファストシルバー



ファスト印シャトルコック　製造発売元
有限会社　ジャワ商会
山形市六日町７の28
電話　0263（22）3994（代表）

これでよいのか“HOW TO SERVE”

――指導者の立ち場から、国際女子を見て

四条畷学園高監督
片岡輝明



全5戦中、第1戦（東京）第3戦（岐阜）の二試合を見た。試合の結果や評は新聞等にまかせ、高校生の指導者としての立場からの意見を述べてみたい。

中、高校生を育てる中で大切なことは、その選手の持っている個性を発見し、いかに身体にマッチしたプレーを身につけさせるかである。長身の者、背の低い者、左利きの者、身体の細い、腕の長い、いろいろ特徴がある。それぞれ一番よい方法でプレーさせることである。

そこで問題になるのがサービスである。ハイクリアやスマッシュは、どんなかっこうで打とうがかまわない。ところがサービスだけは、それはそれはやかましい規則がある。

そこで、だれにでも型にはまった打ち方を、強制的に無理やりにやらせて、試合のさいにフォルトをとられないように練習していく。個性を生かした、独特のサービスを打つ者がなくて規格品ができあがってしまう。

特に一昨年来、サービス・ジャッジが厳しくなり、少しでも疑わしいとフォルトである。和歌山国体での、あの病的なほど神経質だった審判ぶり、インターハイにおけるものものしさ。

さて、今日の大会での話に戻そう。はたして、外国選手に対しても、そうであったろうか。

デンマークの双子ペア、A・フリントのサービスは初めて見たせいか、びっくりした。あれでヨーロッパでは通用するのだろうか。日本選手はほとんど、身体の前方で小さなサービスを出すが、彼女のは身体の側面、ふところの中から打ち出す。身体でシャトルを隠すように。

時折り、無理なスタイルであるので、ラケットが水平に振られている。日本の審判員は知らん顔である。第1戦東京大会では二回ほどフォルトを取られたが、あとはやはり同じように続けていたし、岐阜大会では一度の注意もなく、すべていわゆるオーバーハンドであった。

ここで私は、なにも審判員を責めているのではない。審判制度に対する意見である。

たくさんの中、高校生諸君が観戦している。外国人には寛大であって、育ちゆく若い国内プレーヤーには、変った独創的な

問題？ A・フリントのサービス

サービス体形ができないようなルールは、一考の余地があろうと、主張しているのである。

全英やト杯、ユ杯に出る選手は、ほんの一握りであり、彼等は一流の技術を持っているので、サービスの打ち方を短期間で改めて、フォルトにならない程度に試合中でも操作ができよう。

従って全英でフォルトを宣言されたからといって、それをすぐに、国内の末端の海のものとも山のものともわからぬ、子ども達にまで適用することはないと思う。外国へ行くようになった時点で訂正できるではないか。

それでは遅い、初めから教えろといわれるなら、国内選手にばかりヒステリックに強制せずに、どこの国のだれにでも、同じように適用すればよかろう。

とかく国際招待試合はショー的な要素が強く、ゲームが面白く運ぶようにサービス・ジャッジも甘くなるのだろうが、多勢の中、高校生の納得のいくようにしなければなるまい。

次に日本の中、高校生の問題として考えられるのは、ビッグゲームの観戦機会である。

今回の招待試合はバドミントンの普及宣伝と日本選手の技術向上にあったが、新聞、TVによる前者の目的は、今迄にみられなかったほど、よく達成されたと思う。が、百聞は一見にしかずの通り、やはりナマで見せたいものである。

中央協会が東京にある限り仕方がないが、できる限り地方の子ども達にも機会を与えてほしいものである。大阪に住んでいる私には、東京周辺の子ども達がうらやましくて仕方ない。必ず年に数回はトップレベルの試合を見ることができるのだから。

交通の不便な地方都市でがんばっておられる指導者の方々、選手の方々も同じ気持ちだろうと思う。協会の役員の人達のご努力を期待します。

最後にTVを見ていた人から「ラケットにイニシアルが書いてあるのは何ですか」という質問を受けて、随分と困ったことである。

外国選手だけがガットに記号を書いてよいものであることを報道すべきかどうか、よくわからないが、これもなんとかすべき問題として、今大会の感想を含む問題提起の文を閉じたいと思う。

一挙に吹っ飛んだ苦労

――嬉しかった美智子妃・礼宮様のご観戦――



今回の大会は幹部役員の了承のもとに「若手役員及び学連委員で新しい感覚と知恵を寄せ集めて企画してみよう」という合言葉で始められた。

私達はまず最初に大会準備のための仕事を分析し、分担し、各責任者を決定した。そして経験の浅い各責任者は全日程を通じ、積極的に参加してくれた多勢の若い情熱に燃えた目、声によって、どんなに勇気づけられたか計り知れない。

私達は(1)最少の予算と人員で大会を運営すること(2)マスコミを通じ観客を動員し、かつ観客にうけるように大会を盛り上げること(3)大会の標語を造ること、と、等を骨組として決めた。

まず(1)の件では、今回の大会が、あいにく学生の期末試験と重なってしまい、一部の学生に多大の協力をしていただかなければならなかった。(3)の件は「音と光を調和するバドミントン協会」ということに決められた。(2)の件では事前に新聞社や雑誌社などに連絡するとともに〝バドミントン友の会〟のメンバーなどにも通知を出した。

さらに開会式、閉会式をより工夫してみようということになり、一日目と五日目の、開会式の内容を変えることによって、できるだけ、観客と選手と役員とが、ともに楽しめる雰囲気をつくり出そうと企画した。

そのため音を担当した委員などは、各国選手のために、それぞれの国の音楽を入場行進曲に使おうと、徹夜で選曲したり、合い間に流す音楽はクラシックがよいか、ポピュラーがよいかなどと大変、頭を痛めたという。

また、卓上では行進の仕方、順序なども決め、必らずリハーサルをすることにしていたが、それができなくてぶっつけ本番に入ってしまった等、なかなか計算通りにいかなかった。

審判団にしても、国際試合にめずらしく、線審に女性が登場服装も自由にしたが、一日目の評判が余り良くなかったので、五日目は上衣は黄、橙の二色にスカートは黒に統一してみた。主審のコールも、観客へのサービス精神から、できるだけ日本語を多用してみたが、これはむしろ逆効果であった（なお、五日目は従来通りの国際大会に準じて行なった）。

閉会式は、一日目は簡単に、五日目は〝さよなら閉会式〟とし、音楽と光とを調和させて、観客にも選手にも印象深いものになることを念願した。そのため、いかにして閉会式まで観客を引き留めておくかに一番気をつかった。

幸いにも多勢の観客の協力によって、割れんばかりの拍手で幕が閉じられた時は、関係者一同ホッと胸をなでおろしたしだいである。

それにもまして私達にとって嬉しかったのは、美智子妃殿下礼宮様が会場においでになられ最後までご観戦下されたことであった。このことによって、昼食や夕食抜きで準備に追われた苦労も、いっぺんに吹き飛んでしまった。

なお、最後に全体を通しての反省としては、次の点がある。

事前の緻密な計画、企画にもかかわらず、歓迎パーティに対する不慣れのため、雰囲気を盛りたてることができず、なんとなく後味の悪いものに終わってしまったこと。私達実行委員会と、地方協会との間での連絡がうまくとれなかったため、日本の各選手や、その所属長に大変ご迷惑をお掛けしたこと。また日本選手の面倒をみる責任者を決めていなかったため、いろいろと不便が生じたことなどであった。

しかし、なにはともあれ、ふだんから〝国際人としての感覚〟を身につけることが大切であるし、必要最少限度の英会話ができなければと、痛感させられたしだいである。

の事態

とり気を吐く

〝鉛〟のような足腰、試合後ダウン

相沢・竹中組がストレートで敗れて、このシリーズ1勝3敗となった。負けた相手はいずれもインスタント・ペア「はじめてコンビを組んだペアというのは、実力を十二分に出し切ることがある。なにをやっても相手がそれ以上に強くてはじき返されてしまった」と竹中。

それにしても「リードされても負ける気がしない」いつも強気なペアらしくなく、反撃の気配もないままの敗戦だった。

とくに相沢は足がまったく出ず、声をかける竹中に応える気迫もなかった。相沢は昨年椎間板ヘルニアで四カ月寝たっきり。十二月の全日本総合でカムバックした。この日午前一時すぎ岐阜から宇都宮に着いた旅の疲れと寒さで腰から左足が硬直してしまったのだ。

「再発すればもう競技は出来ない」といわれている。自分の腰に「大丈夫ね」と聞きながら大事にしてきたのだが、この日彼女の腰は重苦しく沈黙したままゴーのサインを送ってくれなかった。相沢は試合後、控室のストーブのそばに横になったままだった。一人出て来た竹中は、最終戦は？の問いに「勝っておくべきでしょうね」と言葉をにごした。

全英選手権まであと一カ月。欧州勢の力が上っている現在、二人にからだを大事にしてがんばってもらいたいというのがファンの願いだ。（毎日新聞）

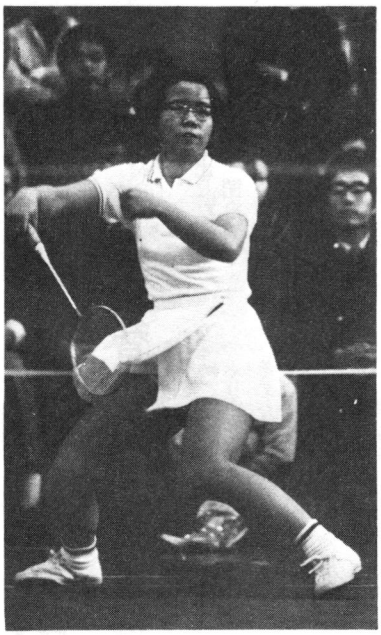
日本選抜2（単1―2 複1―1）3欧州選抜

◇シングルス

○湯木博江（11―3 11―3）ツェドベリ
西尾真理子（5―11 8―11）バンビュー○セコム
藤井由美子（2―11 3―11）ジズマン○

◇ダブルス

相沢マチ子、竹中悦子（10―15 4―15）ギルクス、バンビュー○セコム
○湯木博江 石崎茂子（15―15 15―7）フリント姉、ツェドベリ



負けても貴重〝試合慣れ〟

ホープ西尾ただいま、がんばってます

ホープ西尾は負けても少しも悪びれない。「気持ちに余裕がなくてミスばかり。でも勉強になりました」19歳のおかっぱは明るく笑った。

ことし初めて全英選手権代表に選ばれた。欧州選抜を招待しての対抗戦は、全英選手権の前哨戦でもある。西尾は5戦のすべてに湯木とともにシングルスに出場する。協会の西尾における期待の大きさがはっきり現われている。大黒柱の中山が引退してユ杯3連勝の日本女子は、いま若返りの時を迎えている。

「75年のユ杯は湯木を中心にあとは若手で固める。西尾や、今回出場していないが秋本（日体大）がもっと伸びてくれれば…」（村山日本協会事務局長）

四条畷学高二年でアジア大会に出たことがあるが、ヨーロッパ・スタイルとは初経験だった。

「長身を利した鋭い角度のスマッシュはすごい威力。いきなり全英に出ていたら今回のように負けてばかりだったはず」〝負けてばかり〟の中から得たものは多かった。

「第1戦はコチコチにあがってしまったけど、たんたんと慣れてきた。もうあがらない。それ以上に、これからはどんどん勝ちます。

四条畷学中一年で始めたからバドミントン歴はもう七年、昨年日体大に進みいきなり学生選手権のシングルスに優勝。全日本総合シングルスでは湯木についで二位となった。1㍍58、56㌔とさして体格には恵まれていない。得意はドロップショット。スマッシュの湯木が〝剛〟なら西尾は〝柔〟。だが宮永競技力向上委員はこういった。

「課題はスマッシュ。ドロップもスマッシュが打てて初めて生きてくる。ただ、この大会で大試合には慣れたでしょう」

先輩・湯木はほめた「カンがよくどんどん強くなっている。こっちも負けてはいられない」（報知新聞）

相沢，竹中組最悪

日本連敗２－２のタイに‥‥湯木ひ

◇第４戦　２月４日１時（観衆三千）
栃木・宇都宮、県体育館

私の未来は世界の〝女王〟

ヨーコは自画自讃　だって才能があるもの

「私には才能がある。両親も前はプレーヤー。二つ上、22歳の兄も選手だったわ。けれどもみんな私みたいな才能には恵まれなかったの。全英チャンピオンになる可能性を持っているのは、いまではこの私だけ」親指で自分の胸をグイとさして、ヨーコはいばった。

〝オランダの女王〟は人なつっこくジョーク好き。正式にはヨーコ・ファン・ブーシュコム。むずかしい呼び名を、日本人はだれも正確に呼んでくれないとちょっぴり不満だ。

しかし、二十五日夜来日した五人の〝女王たち〟の中でただ一人の独身。1㍍68、58㌔。グラマーなからだに二十歳の若さ。そしてものおじしない態度に、いち早くヨーコは人気者にのしあがっていた。

「バドミントンやっているから仕事なんかにつけないわ」こともなげにいった。昨年大学を卒業、一時、航空会社のグランド・スチュワーデスをしたが、練習時間にこと欠くとあっさりやめてしまった。いまは電話局の役員をする父親のスネかじりの身だ。

――その昔、長崎の出島にバドミントンを持ち込んだのはオランダ人だった。

「そのせいかしら、私の名前日本ではとってもポピュラーな女の子の名前なんですってね」

――が、いま主客は転倒。世界のバドミントン界は〝やまとなでしこ〟を中心に動いているね。

「だから、こんどヨーロッパのメンバーにはいったことはうれしい。一生懸命やるのが日本での私のデューティ（義務）」

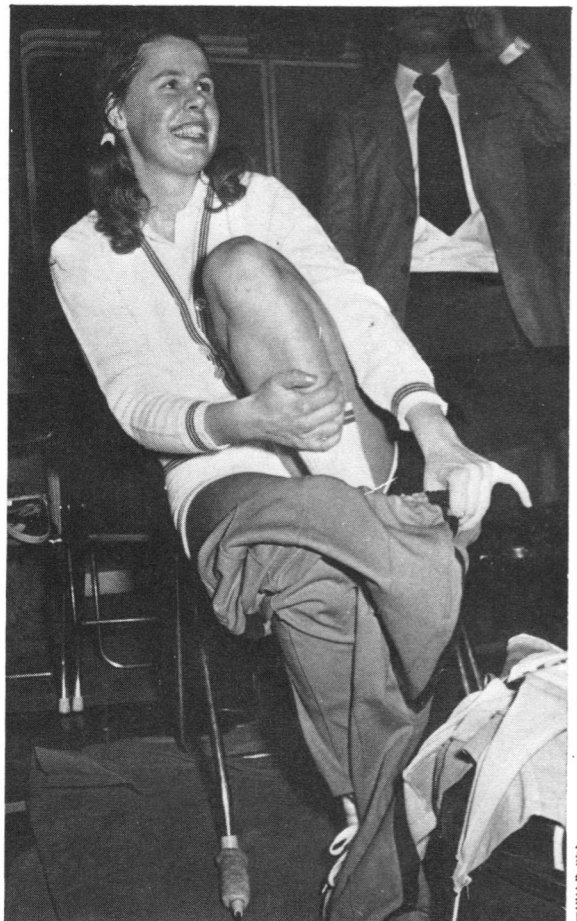
10歳でバドミントンを始め14歳でイギリスの名コーチ、M・ロビンソンに師事した。きびしさというより〝偏屈〟で通るバドミントン界の名物男。

「一週間、ドロップ・ショットばかりやらされたことがあった。とってもきびしい。ときには、つらいと思うこともあるわ。でもスポーツだもの、当然よ」

世界チャンピオンという目指す目標が決まっている選手のひたむきさ。「いまではもう男の人も私にはかなわない。そんな私を町の人たちは世界チャンピオンになると信じているのよ」

アムステルダム近郊、バッセナール。人口七千の小さな町は彼女の本拠地。町の名を口にするとき、ピョコンとかわいい鼻が上を向いた。

（報知新聞）

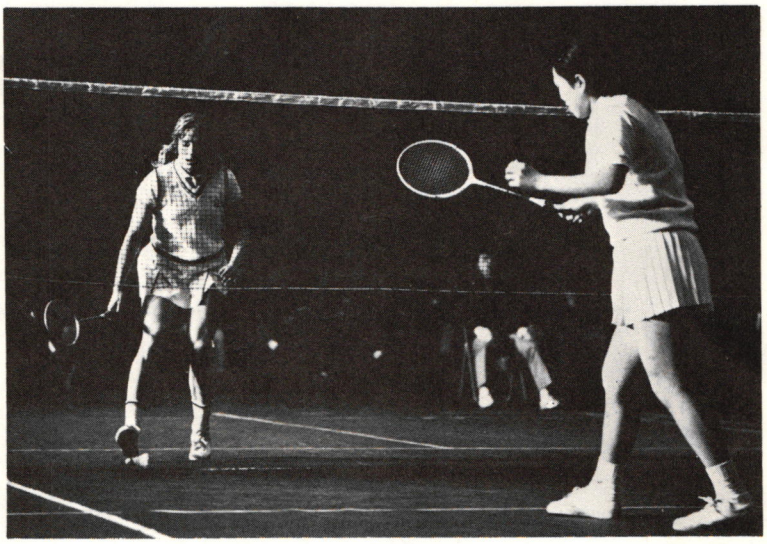


いまだに親のスネっかじりなのよ‥‥フフフ

日本〝女王〟の面目死守

◇最終戦　2月6日5時（観衆三千）
東京・代々木第二体育館

3勝2敗　土壇場で勝越す



湯木もツェドベリに5戦全勝飾る

日本選抜4（単3－0 複1－1）1欧州選抜

▽シングルス
○西尾真理子（11－8 12－9）ジズマン
○湯木博江（11－0 12－10）ツェドベリ
○池田美加（12－11 11－5）バンビューセコム

▽ダブルス
相沢マチ子、竹中悦子（15－3 15－7）フリント姉妹
湯木博江（12－15 16－18）ギルクス○石崎茂子ジズマン

評　結局、欧州は負けたがすべてが迫力にあふれ好試合だった。注目の〝一騎打ち〟は、第一ゲーム、ツェドベリのクリアが深すぎて相手のバックラインを割り、湯木のラブゲーム。しかし第二ゲームでは、ツエドベリのプレースメント技術が上回り8－6とリード。このあと湯木がんばって9オールのセッティング。惜しいことに10オール後、ツェドベリの足が疲れでとまり、ついに湯木が勝利をモノにした。

もう一つ、最終ダブルスも面白かった。中陣でのタマ扱いがうまいジズマンが早いタイミングで好機をつくり、ギルクスへ。ギルクス前陣からの高い強打もさることながら、ジズマンのうまさが光った。タマの作り方では〝世界一〟の観。湯木組は第一ゲーム12オール、第二ゲーム16オールが精一杯だった。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

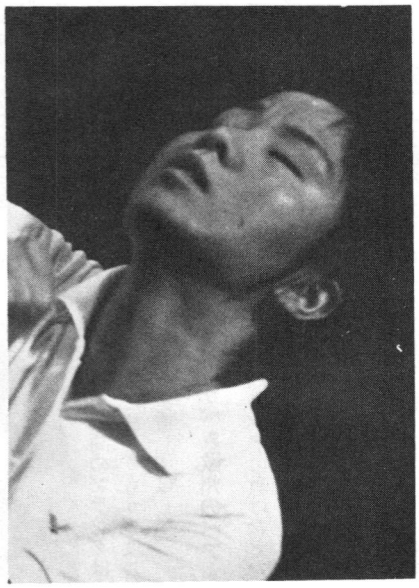
○…閉会式が終わって退場する選手たちは、手を振りながら覚えたての日本語で「サヨナラ」を繰り返した。もう一つ覚えたのは「カンパーイ」試合をするたびに必ずレセプションがついて回ったからだ。

強行日程に疲れ、初め予定していた観光旅行は取り止めになった。日本見物を楽しみにしていた初来日のフリント妹は、ちょっぴりがっかりした様子。

「去年も日本に遠征したアン（姉）にいつも京都や日光の話を聞いていたので、私もとっても見たかった」

ツェドベリは「アジアの中でも日本はヨーロッパの国みたい。東京は現在私の住んでいるロンドンと同じ」が感想だった。

「とっても楽しかった。サンキューカンパーイ」バンビューセコムは妙な日本語を使った。ブロンドのレディたちは七日それぞれの国に帰る。この次は英国で大和なでしこたちが迎えられる番だ。全英選手権は一カ月後に迫っている。（報知新聞）



初出場で4戦全勝

新星・池田が大きく飛躍

バンビューセコムのクリアが右に大きくそれ、サイドラインを割ったとき、日本にまた一人国際的なプレーヤーが誕生した。池田美加、日女体大三年、二十一歳。

この大会で初めてナショナルチームのメンバーに選ばれ、生れて初めて外人と対戦したというのに、シングルス、ダブルス合わせて4戦して無敗。記者投票による今大会の最優秀選手はキャプテンの湯木だったが、この大会を足がかりに大飛躍した点では、池田が〝最優秀〟だった。

「名の通った外人選手と初めて対戦して勝った例は過去にもほとんどなかったんじゃないですか。しかも四回連続して勝つなんて…」スタンドで見ていた中山もすっかり感心した。

池田の武器は1㍍66、66㌔の恵まれたからだで放つ強力なスマッシュだ。相手のフォアを襲うタマ筋が特に鋭く「コースがよかったら、わたしだってノータッチで決められるでしょう」と守りのうまい中山が舌を巻く。

外人選手はリーチが長いから一度はなんとか返せるのだが、二発、三発と打たれると、だんだん返しのタイミングが遅れてタマが浮く。この日対戦した欧州チームの強打者バンビューセコムも力では完全に負けていた。

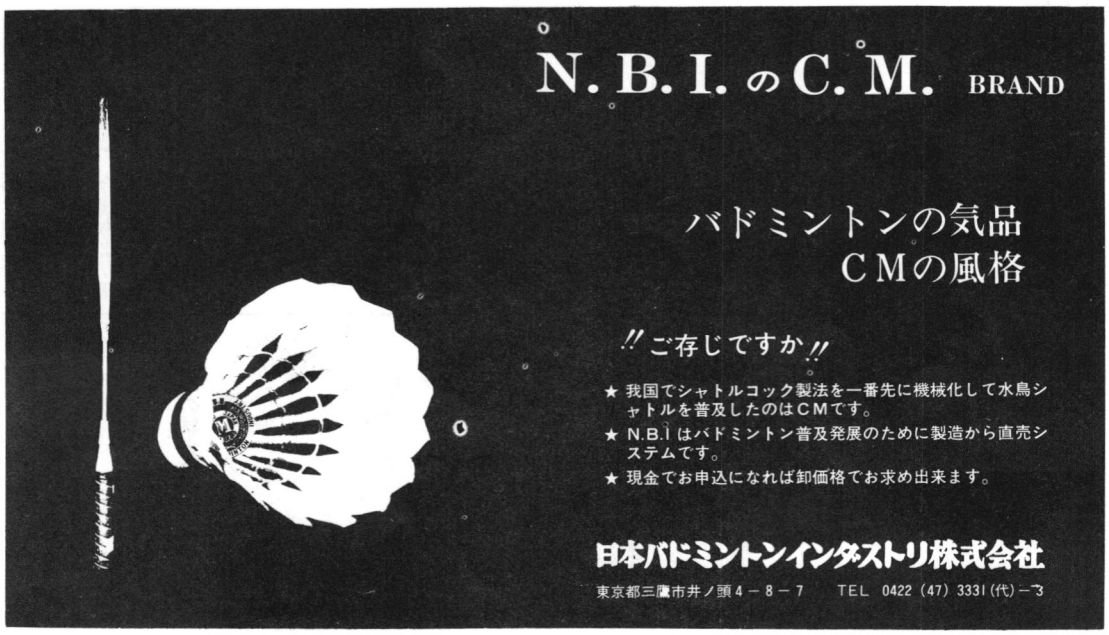
「この大会は自分の力が外人にどれだけ通用するか試してみただけ。勝負にはこだわっていなかった」と池田は無欲の勝利を強調したが「第三戦のギルクス、きょうのバンビューセコムは、ともに西尾さんを破った相手。その二人に勝ったんだから…」と西尾に対するライバル意識もちょっぴり。

西尾には昨年の関東学生、東日本学生大会のシングルス決勝でともに敗れ「実力はあるがタイトルはない」といわれる原因となっているだけに、うれしさはかくし切れない。

日本バドミントン協会は、事実上、個人の世界選手権といわれる全英選手権の代表を決めているが（未発表）その中に池田は入っていないという。

「昨年の全日本総合選手権（十二月）でも西尾さんより順位が下だったから仕方ないけど、ことしはチャンスだから行ってみたい」と世界のヒノキ舞台にファイトを燃やす池田。チャンピオン日本の〝将来〟を考えるなら、協会内の手続きや、遠征費の増額には、この際、目をつぶったらどうだろう。

（読売新聞）



収穫、湯木に安定度増す

〈中山紀子〉

昨年のデンマーク・チームとの対戦から、はや一年。今年は前回の経験をもとに、各国からいろいろなタイプのトップ・プレーヤーを招待したが、予想以上にすばらしい〝チーム〟となり、良い試合を見せてくれたことは大きな収穫だったと思う。

以下、東京(二回)と横浜の大会を観戦、日本の各選手について感じたことを述べてみたい。

〝一球〟の大切さ身につく

まず湯木選手。オリンピック(デモンストレーション)以来、初めて見た公式戦であるが、従来よりも、より打点位置が高くなり、一球一球を大切に打っているようすがうかがわれ大変嬉しく思った。

私の対戦経験からいうと、これまでの彼女は、あれこれ迷っているうちに打点位置を下げてしまい、威力にかけミスの多いプレーになってしまうことが、しばしばであったからだ。

しかし今回は違った。より基本に忠実なプレーをすることによって、見ている観客にも、大いに安心感を与えてくれた。今後もぜひ、今の気持ちを忘れずにプレーしてほしいと願う。

なお一つ注文したい。それはエバ(ツェドベリ)のような強い選手の作戦は予想しやすいものであるが、反対に、むしろ無名の選手に対戦するときに、思わぬ不覚をとらないよう、十分気をつけてほしいということだ。

次に相沢、竹中選手。相沢選手の昨年半年間のブランクは大きかったにせよ、もう一度じっくりと考え直してほしい。



見習うべき欧州のペア

ただ即席ペアに負けたということだけでなく、攻撃を得意としている相沢・竹中組が、より攻撃力のあるペアに対戦した場合の処置方法である。サービス一つ取り上げてみても、地道な努力が必要だと思われる。

なお、コンビ、コンビとうるさくいう日本にとって、今回のヨーロッパの即席ペアの強さは大きな驚きであったと思うが、たとえ即席でも、お互いがダブルスをよく知っており、基本を忠実に守ることができるならば良いペアが生れるはずである。大いに見習うべきであると思われた。

新鋭に明暗、西尾と池田

西尾選手。約一年ぶりに彼女を見たが、当時の豪快さがなくなってしまったように思われた。

それにリーチが余り大きくない彼女としては、コートの中をもっともっと走り回る覚悟がなければ、とうてい背の高い外人には勝てないであろう。加うるにドリブン・クリアの使い方もよほど研究しないと、命取りになるであろう。

池田選手。国際大会初出場ながら、思い切りのびのびしたプレーをしてくれたのは頼もしかった。

特に外人にヒケをとらぬ豪快なスマッシュは、今後もより確実にしていく必要があると思われるが、それにもまして、ネット前でのタマの処理に自信をつけてもらいたいと願う。

好不調も〝実力〟のうち

最後に一つ。今回もしばしば選手から口にされた〈調子がよかったから勝てた、悪かったから負けた〉という言葉、これは他人がそう判断するのはともかく、選手自身がそれによって勝負を云々というのは、望ましいことではない。

人間である以上、コンディションがよい場合も悪い場合もあることはいなめないが、たとえどんなに調子が悪くても、勝たなければいけない時は〝勝つ〟という心構えが必要であろう。

〝女王の座〟守り抜くため

選手には大変、厳しいことかもしれないが、日本がチャンピオン国として不動の地位を築いていくために、あえて望むしだいである。

(前全英チャンピオン)

先輩たちは戦いをこう見た



ほかの試合はチャンバラだ

○…湯木×ツェドベリの5連戦は日本協会の運営準備担当者が国際シリーズの〝目玉商品〟として考え出したもの。国際試合では異例のことだが、両者ともに納得。結果は湯木の5連勝となったが、どの試合も〝この一球〟の重味を感じさせる格調高いもの。ユ杯コーチだった堺栄一氏、感じ入っていわく「この対決が剣豪の決闘だとするなら、他の試合はチャンバラ」

遅れてくるとソンしますよ

○…大会運営の若手は大忙し。第一戦のときは「このさい一人でも多くのファンを定着させよう」と入り口でアンケート用紙をくばり「あなたは、なにで大会のあることを知りましたか」「だれのファンですか」などを質問、抽選でツェドベリ選手の写真が大きく載っているポスターを贈呈。場内アナウンスは、「最終戦の東京大会ではアッという開閉会式をやりますから、絶体に遅れないで来て下さい」と抜け目なかった。

反省の要、相沢・竹中組

〈小島一平〉

今大会のメーン・エベントは湯木×ツェドベリの対戦であったが、5試合いずれも湯木が勝利を収め、力の差がはっきりと現われたといっても過言ではなかろう。

〝最善〟の努力欠いた欧州勢

地元の利は多少あると思うが気候的にも他の面でも、日本とヨーロッパは大差ない。「寒い寒い」とヨーロッパの選手は連発していたが、ウォーミングアップを十分すれば、さして影響のない寒さであったし、親善試合といえども、ベストを尽くすことがアマ・スポーツマンにとって欠くべからざることで、いささか落胆した。

一方、日本チームは中山欠場の穴を埋め、湯木が十分、責任を果したことは、今まで、ともすれば安定感と精神的な弱みが感じられていただけに、特筆すべきである。

しかし、中心選手である相沢竹中にいたっては2勝3敗。それもフリント姉妹に勝っただけで、世界ナンバーワン・ダブルスにしてはお粗末だった。

彼女らにも、親善試合だからという安易感があったことは確かで、多くのファンに失望を与えたことは反省すべきである。要するに、一流プレーヤーとしての条件は、どのような試合においても、自己のベストを発揮する人、ということなのだ。

全英選手権以降、次期ユ杯にかけ、よほど気を引き締めてかからねばならない。



石崎、塩崎に勝負根性を

若手の西尾、池田、石崎、塩崎の4人に関しては、まずまずの出来。中でも池田は全勝の成績を残し、将来に明るいものが見い出された。しかし、シングルスにおいては、まだまだ精進しなければならない。

西尾は昨年、大活躍したときのプレーぶりが見られなかった。

動きがにぶい上、精彩がなく、上り調子の時期だけに、少々残念であった。

石崎、塩崎は試合数が少なかったが、今後の二人は勝負根性を身につけてほしい。ということは、彼女らの試合は迫力に乏しく、また執念が見られないからだ。

勝ったが漂う未来の危機感

いずれにせよ、日本の女子は現在、文字通り世界一の座にあるが、当面の敵よりも、対中国を考えた場合、中山を除く戦力では非常に危険であることをつけ加えたい。

欧州勢の中でギルクスは、ダブルスで男子顔負けの前衛アタック、高い打点から打ち込むスマッシュ、レシーブ力等、日本選手には見られないプレーを発揮した。ジズマン、バンビューセコムの二人はまだ安定性に欠け、精神的な面でも、いま一歩の感じだった。

ほしかった〝代表〟の自覚

大会は各地とも盛況には終わったが、凡戦が多かった。女子の凡戦ほど退屈なものはない。この点に関しても、日本選手の、中ではたして何人が、今後の日本バドミントンの発展を考えてプレーしたか疑問が残った。

実際のところ、現在の日本は女子の試合には観衆が多く集まる。それを考えれば、男子プレーヤーの一人である私は、なにもいえないが、女子の国際試合がしだいに多くなってきているのに、男子に関しては客が呼べないという理由だけで、大した宣伝もせず、計画をしてもらえないのはうなずけない。

男子の強化育成にも関心を

9月の対中国の交流試合は、いまから楽しみであり、世界一の実力を持つ中国に対して、大いにファイトを燃やしているしだいである。

最後に、今後の協会がなにごとにおいても積極的な活動を行なってくれることを切に念じるものである。

（全日本チャンピオン）

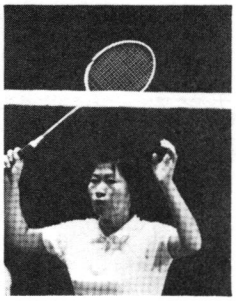
先輩たちは戦いをこう見た

英語でも頼りになる？湯木

○…日本のトップ級ともなると、英語ぐらいはペラペラ、といいたいところだが、実際はそこまでいかず、ペラ、ぐらい。そこで相沢選手などは一年も前からカセット買い込み、勉強に余念がないが、今度はエースの湯木さんも、会話の学校に通うそう。「別に大望を抱いているわけじゃない。しゃべれないため外人に劣等感など抱くようではこまるでしょ」実はこれ、本人自身のためというより、自分が若手にとって頼りになる人間であることを知らしめるためのこと。全英での成果に期待しましょう。

腰痛の特効薬は特訓でした

○…最初の2戦に連敗した欧州チーム、不振に奮起、第三戦（岐阜）に移る前、日本協会のある東京・岸記念体育会館の地下コートで特訓。第二戦で腰を痛めたツェドベリがいい出しっぺ。体協診療所でマッサージを受け「痛い痛い」と悲鳴をあげていたのに、コートに入るとけろり「ワンモア」「ワンモア」とシャトルに食い下がる。「さすがァ、これまでの外人とは違いますね」と関係者も感心していた。



お正月の遊びも洋風化の一途

○バドミントン（叩き込み）羽根つき●

むかし羽根つき、いまバドミントン――の言葉どおり、ひと昔前までバドミントンは〝西洋羽根つき〟じゃないか、などと悪口をいわれていたものだ。ところが、最近数年来、バドミントンへの関心が高まったため、お正月の遊びも、羽子板からラケットへと変わってきたという。

週刊朝日一月十二日号によると次のように述べている。

「いまの大人たちの、子どものころの正月風物誌はタコあげに羽根つき。それに比べて〝現代っ子〟たちは、どんな遊びをしているのだろうか。東京西郊のA小学校児童の正月の遊びはざっと次のようである。

①たこあげ19②バドミントン18③こままわし14④羽根つき13⑤ドッジボール⑥野球7⑦竹うま6⑧サッカー、バレー4（以上屋外の遊び）

…女子は羽根つきに代わってバドミントンがトップ」

☆　☆

それがあらぬか、年末年始の話題を伝える各新聞は、バドミントンと羽子板の関係を、ざっと次のように伝えていた。

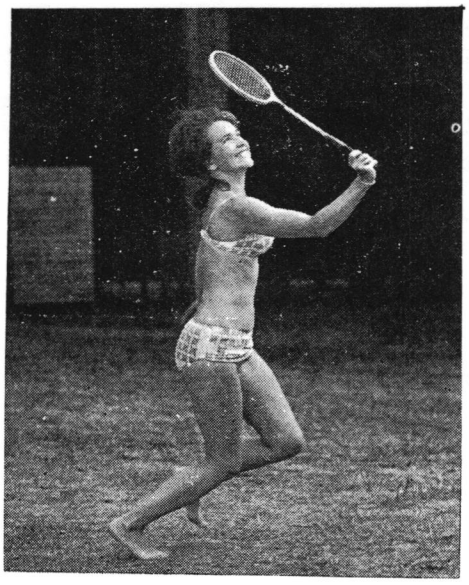
「栃木県佐野市の羽子板業者は正月の需要期を目前に、特産の羽子板の生産や出荷に追われている。現在、同市の羽子板業者はわずか二軒。年間に約三十万板を生産、東京・蔵前の問屋などに出荷しているが、バドミントンの流行をきっかけに需要が減りはじめ、今の生産量は十数年前の十分の一」（読売・栃木版）

「バドミントンがハバをきかすおかげで、カゲのうすかった羽子板も、最近の復古調ムードで人気を盛り返しているが」（産経・東京版）「最近はバドミントンの登場で羽子板も一時ほどの人気を失ったが」（佐賀新聞）

「（羽子板は）一時、バドミントンにおカブを奪われていたが」（読売・長崎版）「デパートの話では、二、三年前まではバドミントンに人気があり、あまり売れなかったが、昨年ごろから…」（朝日・長崎版）

「最近の子供は羽子板なんかか喜ばないんですよ。それよりバドミントン・セットや室内でやるボウリング・セットを喜びます、というお母さんもあり」（長崎新聞）





スウェーデン協会の機関誌の表紙から

〝ユ杯の輝く3連勝〟は10位に

72年スポーツ10大ニュース（読売新聞）

72年のスポーツ界は、札幌・ミュンヘンと二つのオリンピックが開かれて、例年になく、にぎやかだった。

このため、各新聞恒例の10大ニュースも、オリンピック関係が優位を占め、他の競技はいささかかすんでしまった。事実、このニュースの裏付けとなるスポーツ賞も、水泳の田口、ジャンプの笠谷などに集中した。

とはいえ、読売新聞国内10大ニュースをのぞいてみると、バドミントンの〝ユ杯3連勝〟はちゃんと10位にすべり込んでいた。10大ニュースの内訳は次の通りで、五輪、プロ野球、中国問題、大相撲、ゴルフ以外の競技はバドミントンだけ。立派なものであった。

①札幌五輪純飛躍のメダル独占
②巨人〝V8〟となる
③西鉄ライオンズ身売り
④札幌五輪シュランツ失格
⑤体協など〝中国は北京〟認む
⑥大相撲〝外人〟高見山優勝
⑦男子バレー〝アマ違反〟容疑
⑧ゴルフの尾崎10大会で優勝
⑨福本、盗塁の日本新
⑩日本女子、ユ杯3連勝

バドミントンは二番人気

――熊本県庁女子職員のアンケート

「女性はどんなスポーツに興味を持ち、実際にやっているのだろうか」と熊本県では昨年末から県庁の女子職員四百八十九人を対象に、アンケート方式による調査をしていたが、その結果を、このほどまとめた。

四百八十九人の年代は10代二十七人、20代三百十五人、30代七十六人、40代六十人、50代十一人で、未婚三百二十九人、既婚百六十人。

★　★

(1) **自分を運動不足と思っているか**――では全体の85%が「思っている」と答え、その大部分が「身近に運動する機会があれば参加したい」意見を持っている。

(2) **最近一カ月間に一度も運動をしなかった**――というのは28%で、約四人に一人の割合。年齢が上がるごとに、その割合は高くなり、20代は23%なのに、40代では48%。また未婚者は21%、既婚者は41%だった。

(3) **最近やったスポーツ**――ではボウリングが最も多く63%ついでバドミントン、卓球、美容体操、ゴルフ、アイススケート、バレーボールの順。

(4) **これからやりたいスポーツ**――は、やはりボウリングが一番多かったが、二番目はゴルフ、三番乗馬となっており、〝高級スポーツ〟を指向していることがわかる。このほか、美容体操、卓球、サイクリングと続きアーチェリーというのも四十六人あった。

(5) **現在やっているスポーツとこれからやりたいスポーツを比較すると**――ボウリングやバドミントン熱は今後下り坂、逆にゴルフ、アイススケート、乗馬、美容体操、卓球、アーチェリーなどが盛んになりそう。

(6) **スポーツ場の利用料は月にいくら使っているか**――では五百―千円が50%、千―千三百円が25%。

(7) **運動公園があれば利用したいか**――に対しては四百七十九人が「したい」と思っており要求条件は第一に「家に近いところ」第二に「料金が安いこと」をあげている。

(8) **どのような施設がほしいか**――では①いろんなスポーツが家族、友人とともに楽しめる健康的なスポーツセンター（42人）②自然の残った広い緑の公園、子どもと遊べる公園（25人）③申し込みなしで、いつでも利用できる体育館（16人）④趣味を生かした各種教室⑤屋内温水プール（以上9人）が多かった。

このデータは、女子勤労者向けの運動施設を作る場合の参考にする。（読売新聞）



駅前にシンボルタワー

茨城国体のバド開催地

茨城国体まで、あと二年。バドミントン会場となる石岡市の国鉄駅前ロータリーに、このほどシンボルタワーがつくられ、人目をひいている。

高さ8㍍の鉄塔に図案化されたバドミントンの絵と〝バドミントン会場〟の文字。費用シメて65万円。国体後は標示板をはずし、交通安全の呼びかけや市の催物のPRに使う。

若い自衛隊員がプレゼント

バドミントンなど、施設の子供達に

香川県善通寺の若い自衛隊員二人が、ボーナスをさいて、バドミントン用具などを買い、児童養護施設に善意のプレゼントをしていたことがわかった。

この隊員は陸上自衛隊善通寺駐とん第十五普通科連隊重迫中隊の森川幸雄二士（19）と野島明二士（19）。プレゼントを受けた施設は愛媛県西条市中野町にある青葉寮。

香川・愛媛の結びつきはどうしてかというと――森川二士は西条市に近い町の出身。72年三月、高校を出たが、西条高在学中、市内奉仕団の一員として青葉寮を〝モチつき訪問〟した。

このとき、飛び上がって喜んだ両親のいない子どもたちの姿が忘れられず、年末にもらった、とぼしいボーナスの中から一万二千円をはたいて、バドミントン用具、グローブ、ボウリング・セットなどを買った。

これを知った同僚の野島二士が「少いが仲間に入れて」と千円を出し、マスコット人形を買って、二人でプレゼントした。

青葉寮の寮長から、しばらくして連隊の隊長あてに「寮には幼児六人と小学生二十人が収容されており、思いがけぬ贈り物に、みんな大喜びです」と礼状が届いたため、二人の善行がわかった。（四国新聞）

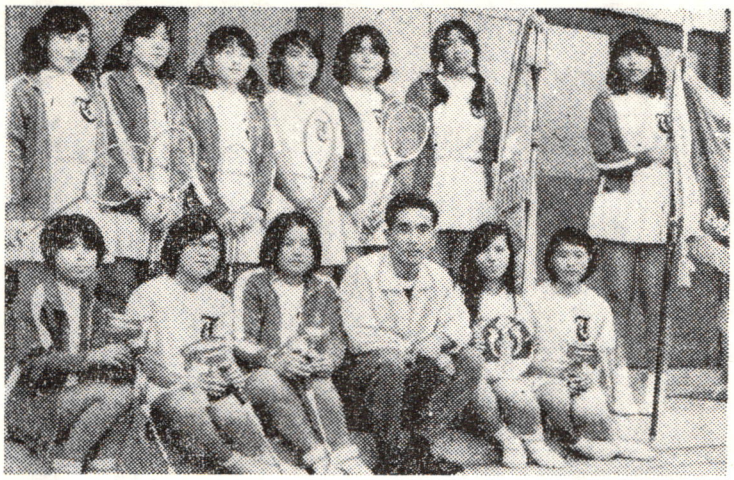
☆これこそ、本当に〝愛される自衛隊〟のお手本。それにしても、バドミントン用具とは、いいところに気がついてくれたもの。バドミントンは実際、全国各地の自衛隊で盛んに行なわれています。この二人も経験があるのかもしれない。

“陸の孤島”のハンデはね返す

野崎中（佐世保）六年目で悲願達成

県大会初優勝　実を結んだチームワーク

条件が悪くとも、努力すればできる――長崎県佐世保市の野崎中（坂本好夫校長、生徒百七人）は、俵ガ浦半島の突端にあり〝陸の孤島〟と呼ばれるほどの辺地。しかし、この中学の女子チームが、さきごろ県下中体連大会で、団体戦に念願の優勝を飾った。地理的ハンデキャップを克服しての栄冠だけに「立派なものだ」と、大評判となっている。（長崎新聞）



県中体連大会で念願の優勝をなしとげた野崎中のメンバー

野崎中のバドミントン部は六年前に創設された。生徒数が少いため、部員は女子だけ。創設の年に市の中体連大会団体戦で初優勝して以来、この種目では六年連続優勝と、無敵を誇ってきた。ところが県大会では長崎勢をどうしても降せず、〝万年二位〟に泣いてきた。

野崎地区は、市街地からバスで五十分、定期船で四十五分と遠く離れた〝辺地〟。このため、他校との練習試合もほとんどできない状態。地理上のハンディキャップが、いつも〝いま一歩〟というところで〝優勝〟の前に立ちはだかった。

五年前から、バドミントン部の指導に当たっているのは、最上卓治教諭（37）。四年前にバドミントン部全員にバスケットボールをすすめ、チームワークと敏しょう性を養うとともに、部員の頭から〝辺地コンプレックス〟を一掃した。

そして、さる十一月七、八の両日、同市で開かれた県中体連大会。野崎中は友人や父兄ら地元民総出の声援をバックに、長崎代表の緑ガ丘中、西彼南代表の琴海中などの強豪を倒して見事に優勝を飾った。個人戦でもシングルスで佐々木恵、ダブルスで中里れい子・まゆみの双子選手がそれぞれ二位と、これまでのウップンを一気に晴らすかのように活躍した。

勝因について最上教諭は「団体戦一本に絞って練習し、また作戦を練った結果」と、チームワークの勝利を強調、それは出場選手だけではなく、学校、地区民を含めたものであることをつけ加えた。

チームワーク――優勝は辺地の小規模校でも、努力によってはマンモス校にだって負けないという自信を植えつけた。

必修クラブ活動採用予定
岡山県でバドは7番目

新学習指導要領の実施で高校（新入生）も新年度からクラブ活動が必修になる。岡山県教委が、このほど県内の県立高校62校6分校を対象にアンケート調査したところによると、採用予定の体育クラブ・ベスト10は次の通りで、バドミントンは7番目に多い。

①バレー62校②軟庭61③卓球60④柔道46④剣道46⑥バスケット45⑦バドミントン39⑧陸上38⑨ソフト38⑨サッカー38

旭川の夜間開放教室は
バドミントンに人気集中

北海道旭川市の教委が、昨年六月―十月に市体育館で実施した〝夜間開放スポーツ教室〟利用状況が公表された。行なったのは三球技だが、人気が集中したのはバドミントンで五百四十一人、ついで卓球四百四十四人、バレー三百六十人。合計の総利用者は前年より五百人増。バドミントン、バレーは午後六時オープンでは消化しきれず、午後四時からに繰り上げた。

ただし、利用者の大半は官庁会社等の組織グループ。ついで中高校生。主婦は二十人たらずで、本来のねらいである「しろうとに楽しんでもらう」ことがむずかしいことがわかった。

中山紀子さんに晴れの技能賞

――日本協会恒例の年度表彰――



日本協会の47年度表彰者（団体）は①功労賞に第6回ユ杯代表チームのほか4氏、②国体10回以上出場者5氏、③技能賞に日本女子のレベルを世界一に引き上げた〝女王〟中山紀子さん④そのほか第27回国体開催の鹿児島市ほか4団体に感謝状――と決まり、さる十月二十三日の国体バドミントン開始式の席上表彰が行なわれた。

【功労賞】

・藤田義光（熊本県協会・会長＝代議士）
・植田博宜（山口県協会・理事長＝大洋漁業）
・日高　壮（宮崎県協会・理事長＝宮崎市役所）
・増井益二）全日本実業団連盟前理事長）
・第六回世界女子選手権（ユーバー杯）大会日本代表チーム

【国体10回以上出場表彰】

・松下　力（石川県協会＝北陸電電）
・大世古吉松（三重県協会＝伊勢工教、日本協会指導委員）
・山口征一郎（長崎県協会＝自家営業）
・南　直治）熊本県協会＝信愛女学院高教）
・松本行弘（宮崎県協会事務局長、宮崎市教育委員会）

【技能賞】

・中山紀子（東京都、弘文堂）

【感謝状】

・鹿児島市・西桜島村
・河崎ラケット工業株式会社
・ライオン歯磨株式会社

×　×　×

【岡山県】岡山スポーツ賞功労賞＝毛利清志（山陽女高教、日本バドミントン協会常務理事ユ杯監督）

【兵庫県】兵庫県スポーツ優秀選手賞金メダル＝柴山きよこ（三菱電機伊丹、ユ杯選手）

【埼玉県】敍勲者として埼玉県体協から表彰＝市川十郎（県バドミントン協会会長、敍勲は勲五等旭日賞）

【青森県】青森県スポーツ優秀選手賞＝▽高校須藤茂（東奥義塾）下山謙（弘前）村元英美（弘南）本田励子、岩淵順子、家口康子（以上、千葉）▽一般七戸邦子（弘前相互銀行）▽教員藤田昶（弘前学）市川和司（東奥義塾）横山正二（弘前学）（弘前高）

【香川県】四国新聞スポーツ賞優秀賞＝小片千恵子（高松商高教、全日本教職員女子シングルス優勝）

【新潟県】大光相互銀行体育振興賞＝高坂薫（佐渡汽船＝ユ杯選手）

【神奈川県】神奈川県スポーツ優秀選手賞＝小島一平（ヨネヤマラケット、全日本総合選手権男子シングルス、ダブルス優勝）▽国体一般男子チーム

【青森県】五所川原市第一回スポーツ賞＝五所高定時制男子バドミントン・チーム

【沖縄県】沖縄県高体連優秀チーム賞＝那覇商バドミントン男子チーム、同女子チーム

?!?!?!?!?!?!

ニクソンも愛好者

ニクソン米大統領はホワイトハウスがきらいとみえて、しょっちゅうメリーランド州の山奥にあるキャンプ・デービッドの山荘に〝脱出〟する。一人静かに仕事をするためだが、息抜きにはバドミントンもやるらしい。敷地内にはプール、ボーリング場、弓射ち場にまじってバドミントン・コートがあるから。但し警戒厳重で写真がとれないとのこと。残念です。

編集室

残念だが、どうしても紙面がたりない。このため、かなり変則的な編集になってしまった。ページをふやせば、郵送料が大きく変わってくるので、どうしても当面は40ページに押えなければいけない情勢。あしからずご了解下さい。その代わり、写真を倍にしてみた。近く男女の連続写真も登場させる予定。

なお、本号は写真の関係で定価を特にあげたが、年間講読者各位には近い将来、清算することにして、今回はサービスします。また、本号は二・三月合併号ですが、年間講読者は一年十二冊を受け取る権利があるので一号分だけ、その権利が先に延びるわけです。

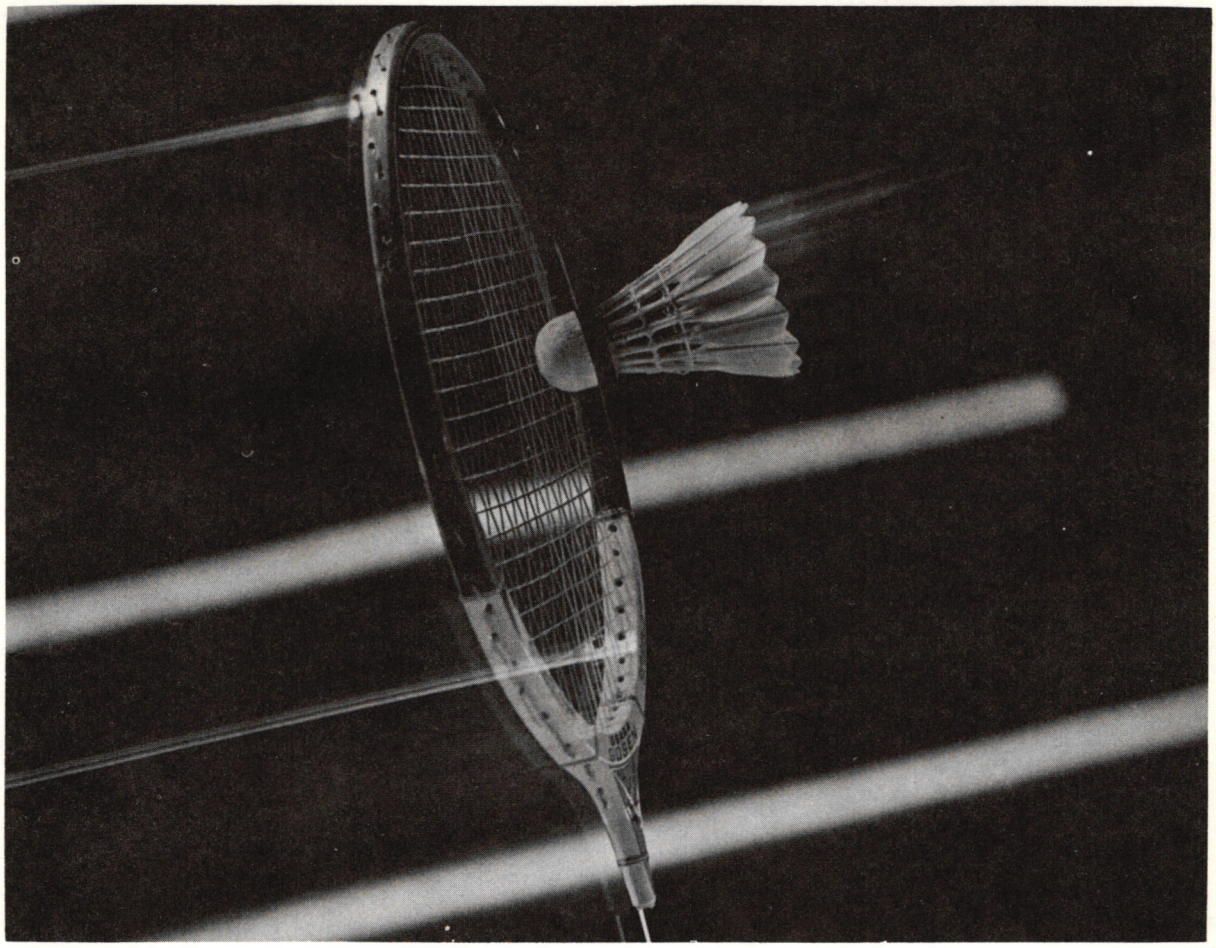
最近、投書、寄稿が少いようです。どしどし寄せて下さい。

【バドミントン界】第41号
昭和47年1月25日　印刷
昭和48年2月1日　発行
編集兼発行人　川端　昇　市
発行所　東京都渋谷区神南一の一の一　岸記念体育館内　日本バドミントン協会
電話　四六七・三一一一（内線）二五一　四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所　東京都豊島区南大塚二一二九　明宏印刷株式会社
定価　一部　百三十円

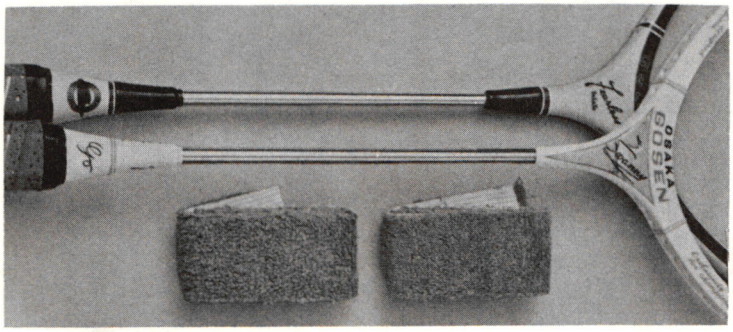
©無断転載を禁ず

《新発売》

Swannv



この確かなバイブレーション。
それはスワニー。



特殊合板の力強いフレームに、従来のものより長いステンレス・シャフトの強靭性が強力なバイブレーションを生み、重さも122g以下と今までより軽くなり、それがスピードとパワーの素晴しいバランスを構成し、ふりもシャープな一級品ラケットをつくりました。

No.β スワニー〈フレーム・カバー付〉 ¥3,800

☆お買い上げになりますとタオルグリップがついています。

大阪合繊株式会社
本　社・大阪市東区豊後町4 ☎(06)942-5816 代
東京営業所・東京都台東区鳥越1-26-1 ☎(03)862-6576 代

この欄の記録は各県協会や関係者から寄せられたもののほか地元紙掲載のものの転載です。

栃木県

◆第21回県総合選手権大会
（47年11月26日＝県体育館）

◇男子シングルス
▽準決勝
森田（盲学校教）2－0久野（日海）
阿部（栃高OB）2－0別井（今高教）
▽決勝
森田 15－8 17－14 阿部
15－14－18 15－3
三富 久野

◇男子ダブルス
▽準決勝
別井・森田（今高教、盲学校教）2－0石崎・柏谷（真岡工）
久野・三富（日海、下都賀病院）2－1三上・斎藤（富士重工、今市中）
▽決勝
別井 森田 15－14－18 15－3 久野 三富
15－7 17－14 阿部 8

◇女子シングルス
▽準決勝
沼能（真岡女）2－0藤井（旭光学）
高瀬（今市高）2－0須田（宇女商）
▽決勝
沼能 11－7 11－8 高瀬

◇女子ダブルス
▽準決勝
橋本・藤田（真女出、旭光学）2－0沢村・坂入（真岡女）
沼能・仁平（真岡女）2－0藤井・竹田（旭光学）
▽決勝
橋本 藤田（棄権）沼能 仁平

◇混合ダブルス
▽準決勝
三村・大貫（神戸製鋼、旭光学）2－0羽石・竹田（旭光学）
別井・斎藤（今市教、今高）2－0久野・藤井（日海、旭光学）
▽決勝
＝時間切れ、双方優勝＝

神奈川県

◆第5回県会長杯争奪大会
（47年12月17、24日＝日産自動車）

◇男子シングルス
▽準決勝
笠井（関東自）15－8 15－2 鎌田（三菱横造）
鈴木（三菱横造）15－4 17－14 古谷（三菱横造）
▽決勝
笠井 15－12 15－7 鈴木

◇男子ダブルス
▽準決勝
横尾 金子（県庁、宮田中教）15－3 15－11 秋山 紅野（日立戸塚）
田口 山本（日立戸塚）15－4 15－14 津久井 寺本（新日鉄）
▽決勝
横尾 11－1 9－12 12－11 金子
田口 15－7 金子 山本

◇混合ダブルス
▽準決勝
落合 宮川（カワサキ）15－5 5－15 18－14 瀬戸 武田（IBAM、PAA）
山崎 笠井（関東自）15－7 17－14 鈴木（三菱横造） 吉田（日立戸塚）
▽決勝
落合 宮川 15－8 12－15 15－12 山崎 笠井

◇女子シングルス
▽準決勝
横尾（県庁）11－1 11－8 瀬戸（平塚市役所）
金子（宮田中教）11－7 11－4 寺本（新日鉄）
▽決勝
横尾 15－5 11－8 瀬戸
金子 15－7 11－4 寺本

◇女子ダブルス
▽準決勝
横尾 金子（県庁、宮田中教）15－3 15－11 秋山 紅野（日立戸塚）
田口 山本（日立戸塚）15－4 15－14 津久井 寺本（新日鉄）
▽決勝
横尾 金子 11－1 9－12 12－11 金子

◇混合ダブルス
▽準決勝
鈴木（三菱横造）15－11 鎌田
横尾（県庁）15－5 秋山（日立戸塚）
吉田 山本（日立戸塚）15－7 18－14 落合（カワサキ） 金子（宮田中教）
▽決勝
鈴木 15－6 15－10 吉田
横尾 山本

◆県高校定通制大会（47年11月5日・湘南高体育館）

◇男子団体戦
▽準々決勝
湘南 3－0 磯子工
横浜技術 3－0 平沼通
厚木南 3－0 港
大船技術 3－2 市川崎
▽準決勝
湘南 3－0 横浜技術
厚木南 3－1 大船技術
▽決勝
湘南 3－0 厚木南

◇女子団体戦
▽準々決勝
○天城 喰地 11－1 11－8 堀越
○白佐 瀬田 11－3 12－11 灰野 樋口
○天野 11－0 11－0 灰野
▽準決勝
南 2－0 大船技術
厚木南 2－0 戸塚
ソニー学園 2－0 横浜商
高津生田 2－1 城内
▽準々決勝
湘南 2－0 厚木南
ソニー学園 2－0 高津生田
▽決勝
湘南 2－0 ソニー学園
○玉上 川 11－3 佐々木 11－4 春日
○上野 11－3 春日 11－6

三重県

◆東海総合選手権大会（47年9月23、24日＝松阪高体育館）

◇男子シングルス＝32人
▽準々決勝
森（岐阜）2－0平松（愛知）、松島保（愛知）2－0増井（三重）、松島信（愛知）2－1池田（三重）、河田（岐阜）2－0牛島（愛知）
▽準決勝
森 芳夫 15－11 15－1 松島 保
松島 信之 17－14 15－11 河田 満
▽決勝
森 芳夫（棄権）13－1 松島 信之

◇男子ダブルス＝16組
▽準々決勝 伊村・樋口（愛知）2－0上原・安藤（岐阜）、角田・古西（岐阜）2－1井出・滝（静岡）
菱田・加藤（愛知）2－0大世古・南（三重）、森・河田（岐阜）2－0牛島・松島（愛知）

▽準決勝
伊村 15−11 角田
樋口 15−11 古角
森田 15−5 菱田
河田 15−9 加藤

▽決勝
伊村 15−5 森
樋口 17−14 河田

◇女子シングルス＝32人
▽準々決勝 橋本（愛知）2−0大西（三重）、池田（愛知）2−0山本（愛知）、工藤（愛知）2−0紺野（愛知）、富居（愛知）2−0村田（静岡）

▽準決勝
橋本 香代 11−4 11−3 池田 静江
富居 康子 11−4 11−6 工藤美佐江
橋本 香代 11−3 富居 康子

◇女子ダブルス
▽準々決勝 橋本・池田（愛知）2−0加藤・細小路（静岡）、野崎・山川（三重）2−1山本・林（愛知）
富居・紺野（愛知）2−0島田・大西（三重）、工藤・大橋（愛知）2−0島・石川（静岡）

▽準決勝
橋本 15−3 野崎
池田 15−4 山川
工藤 15−9 富居
大橋 15−4 紺野

▽決勝
橋本 14−17 工藤
池田 15−11 15−8 大橋

【47年度東海総合選手権ランキング】
◇男子シングルス ①森芳夫（岐阜）②松島信之（愛知）③松島保（同）④河田満（岐阜）⑤池田正（三重）⑥平松孝礼（愛知）⑦増井孝夫（三重）⑧牛島秀雄（愛知）

◇男子ダブルス ①伊村隆・樋口一春（愛知）②森芳夫・河田満（岐阜）③加藤保利・菱田修光（愛知）④古西悟・角田勝（岐阜）⑤井出裕雄・滝正孝（静岡）⑥牛島秀雄・松島信之（愛知）⑦上原章・安藤義治（岐阜）⑧大世古吉弘・南善雄（三重）

◇女子シングルス ①橋本香代（愛知）②富居康子（同）③工藤美佐江（同）④池田静江（同）⑤山本弘子（同）⑥松田絹子（同）⑦大西峰子（三重）⑧紺野幾子（愛知）

◇女子ダブルス ①橋本香代・池田静江（愛知）②工藤美佐江・大橋美知子（同）③富居康子・紺野幾子（同）④野崎里花・山川恭子（三重）⑤山本弘子・林澄江（愛知）⑥島恵子・石川真澄（静岡）⑦加藤悦子・細小路和恵（同）⑧島田秀子・大西峰子（三重）

愛知県

◆中日楯争奪秋季県新人大会
47年9月15、17、23日＝名古屋市体育館、愛知県体育館）

◇男子シングルス＝235人
▽5回戦 金子（名市大）2−0山崎（名大）、竹田（日本電装）2−0大橋（名大）、瀬尾（南山大）2−0宮原（愛教大）、瀬戸口（豊田織機）2−0浅野（愛大）
三浦（名城大）2−1亀谷（愛大）、伊藤雅（電電東海）2−0中山（YMCA）、上前（日本電装）2−0渡部（名大）、山口（豊田織機）2−0野田（名大）

▽準々決勝 竹田2−0金子
瀬尾2−0瀬戸口、伊藤雅2−0三浦、山口2−0上前

▽準決勝
竹田 15−3 瀬尾
15−6
山口（棄権）伊藤雅

▽決勝
竹田 17−16 山口
棄権

◇女子シングルス＝177人
▽5回戦 成瀬（金城高）2−0石河（時習館）、竹内（市邨高）2−0大場（日福大）、竹内（半田農）2−0八木（愛県大）、横江（椙山高）2−0川村（淑徳学）
広瀬（淑徳学）2−0榊原（教室ク）、岩田（椙山高）2−0田岡（名女大高）、松井（愛教大）2−0本田（名女大高）、中根（豊田東）2−0中野（新日鉄）

▽準々決勝 竹内（市邨高）2−0成瀬、横江2−0竹内（半田農）、広瀬2−0岩田、松井2−0中根

▽準決勝
竹内 11−9 横江
11−4
広瀬 11−3 松井
11−4

▽決勝
広瀬 11−5 竹内
11−1

◇男子ダブルス＝127組
▽準々決勝 瀬尾・神戸（南山大）2−0藤塚・三浦（名城大）、山崎・渡部（名大）2−0勝・村山（名工大）
飯村・石川（中京大）2−0塚腰・三嶽（名大）、大橋・野田（名大）2−1亀谷・浅野（愛大）

▽準決勝
山崎 15−2 瀬尾
渡部 15−2 神戸
大橋 15−10 飯村
野田 15−4 石川

▽決勝
山崎 8−15 大橋
渡部 15−4 15−11 野田

◇女子ダブルス＝97組
▽準々決勝 榊原・杉山（教室ク）2−0大場・小笠原（日福大）、加藤・竹内（半田農高）2−0杉山・松本（日福大）
神谷・赤木（名城大）2−0安沢・鶴田（淑徳高）、星野・岡田（愛県大）2−0斎藤・石河（時習館）

▽準決勝
加藤 15−8 榊原
竹内 15−8 杉山
神谷 15−10 星野
赤木 15−4 15−10 岡田

▽決勝
神谷 18−14 加藤
赤木 15−10 竹内

石川県

◆47年度県総合選手権大会
12月23、24日＝石川県体育館）

◇男子シングルス＝48人
▽準々決勝 松下（電通）2−0相川（中大）、東（倉庫精練）2−0安江（津田駒）、銭谷（中大）2−0堂谷内（津田駒）、長谷川（藤花高教）2−0原（金沢市工）

▽準決勝
東 2−0 松下
銭谷 2−0 長谷川

▽決勝
銭谷 15−8 東
15−6

◇男子ダブルス＝26組
▽準々決勝　相川・銭谷（中大）2－0原・高来（七工教、短大教）、松下・奥村（電通、自営）2－1中田・東（倉庫製練）
北方・長谷川（藤花教）2－0原・山下（金市工）、安江・堂谷内（津田駒）2－0高橋・島竹（金沢大）
▽準決勝
相川・銭谷　2－1　松下・奥村
北方・長谷　2－0　安江・堂谷川
▽決　勝
北方・長谷川2－0相川・銭谷

◇女子シングルス＝22人
▽準々決勝　沢野（金城保育）2－0坂本（二水）、田中（辰ロク）2－0松田（北陸短大）、森田（東女体大）2－1田丸（津幡）、庭田（辰ロク）2－1気谷（津幡）
▽準決勝
沢　野　2－0　田　中
森　田　2－0　庭　田
▽決　勝
沢野（11－1、11－7）森田

◇女子ダブルス＝14組
▽準々決勝　田中・庭田（辰ロク）2－0山崎・宮野（津幡）、井上・坂本（二水）2－0中山・早瀬（金城）、沢野・佐藤（七尾協、金城保育）2－0森田・猪谷（津幡OG）、田丸・森田（津幡）不戦勝
▽準決勝
田中・庭田　2－0　井上・坂本
田丸・森田　2－0　沢田・佐藤
▽決　勝
田中・庭田　2－0　田丸・森田

◇混合ダブルス＝4組
▽決　勝
沢野・原（金城保育、七工教）　2－0　松田・東（北陸短大、倉庫製練）

◇成人シングルス＝4人
▽決　勝
村西（18－15、2－15、15－0局）毛利（二水教）（国府郵便）

◇成年ダブルス＝2組
▽決　勝
村西・中田（二水教、倉庫製練）　2－0　北方・奥村（藤花教、自営）

◇中学男子シングルス＝14人
▽準決勝　高橋（御祓）2－1山口（高松）、守山（御祓）2－0平田（西南部）
▽決　勝
守山（4－11、11－7、11－5）高橋

◇中学男子ダブルス＝14種
▽準決勝　守山・高橋（御祓）2－0山下・北本（西南部）、折戸・山口（高松）2－0岡田・竹内（高松）
▽決　勝
守山・高橋　2－0　折戸・山口

◇中学女子シングルス＝29人
▽準決勝　石田（城南）2－1渡辺（門前）、平野（城南）2－1元橋明（東部）
▽決　勝
石田（9－7、9－6）平野

◇中学女子ダブルス＝20組
▽準決勝　福原・高木（東部）2－0元橋・今部）、里村・岩田（東部）2－0滝下・平野（門前）
▽決　勝
福原・高木　2－0　里村・岩田

◆47年度県国体総合選手権大会（47年12月3日＝県営加賀体育館）

◇男子＝14チーム
▽準決勝
津田駒　3－0　金沢市役所
金沢市工　3－2　教職員ク
▽決　勝
津田駒　3－0　金沢市工
○安江（15－13）原
○堂谷内（15－8）山下
○山本（15－11）木下
○竹鼻（18－15）小中
○堂谷内（15－5、15－2）原

◇女子＝7チーム
▽準決勝
能美ク　3－0　藤花高
津幡高　3－1　金城高
▽決　勝
津幡高　3－1　美能ク
坂口（9－15）田中
横山（11－15）庭田○
○田丸（15－3）元田
○森田（15－2）今西
○山崎（11－0、11－4）元田
○坂口（11－2、11－2）田中

◆47年度県都市対抗選手権大会（47年11月12日＝宮城工専）

◇Aリーグ
▽白石3－2名取A▽古川4－1石巻▽白石3－2古川▽石巻4－1名取A▽石巻4－1白石▽古川3－2名取A
【順位】①古川2勝1敗（得試9－6失試）②石巻2勝1敗（9－6）③白石2勝1敗（7－8）④名取A3敗（5－10）

◇Bリーグ
▽多賀城4－1名取B▽仙台3－2塩釜▽塩釜4－1名取B▽仙台4－1多賀城▽仙台5－0名取▽塩釜4－1多賀城
【順位】①仙台3勝（12－3）②塩釜2勝1敗（10－5）③多賀城1勝2敗（6－9）④名取B（2－13）

◆47年度県混合選手権大会（47年12月3日＝仙台・レジャーセンター）

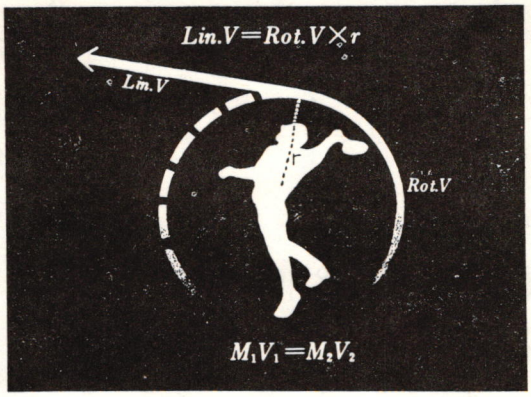
◇一部
▽準々決勝　安斎・横田（TG、女商ク）2－0石川・山岸（仙商ク、教育大）、渡辺・石垣（塩釜ク）2－0小原・荒井（TG）
山並・高橋（仙商ク、尚絅ク）2－0阿部・佐々木（TG、女商ク）、牛渡・鈴木（塩釜ク）2－0岩淵・伊藤（TG、MG）
▽準決勝
山並（15－12）牛渡
高橋（15－9）鈴木
渡辺（17－13、13－17、15－13）安斎
石垣　横田
▽決　勝
渡辺（15－1、15－0）山並
石垣　高橋

◇二部
▽準々決勝　須田・東海林（仙商ク、宮城ク）2－1三上・志田（同好会）、内藤・鈴木（仙高ク、宮城ク）2－0高橋・山崎（同好会）
小池・山岸（育英ク、宮城ク）2－1平山・中野（同好会）、川村・佐藤（TG、宮二女ク）2－0高川・矢木（宮城ク、同好会）
▽準決勝
川村（15－7）小池
佐藤（15－6）山岸
須田（18－15）内藤
東海林（15－1）鈴木
▽決　勝
川村（15－7、15－6）須田
佐藤　東海林

一体製造がラケットを変えた。

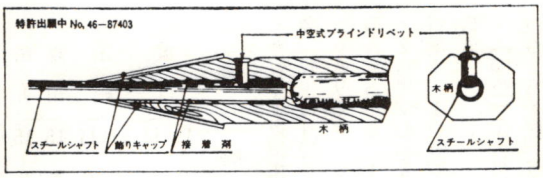
●力学に基づいて製造された、新製品です。

キャリーシリーズ、バトミントンラケットは、従来のシャフトとヘッド(フレーム)を接合した、ステップ付のラケットではなくシャフトとヘッドが一体製造になった、画期的な新製品です。



ハイクリャー、ドロップ、ロビング、ドライブ、スマッシュ、ショートサーブ、ロビングサーブ、ヘアピン、プッシュなど、ゲームの必要場面において、最も効果的な偉力を発揮するという専門家達からの好評を、受けております。

私達は常にプレイヤーの側に立ち、より強靱で軽く、ハイパワーを生み出すラケットを、研究・開発する事に、意欲を燃やしております。これこそキャリー・スピリット(精神)であると、自負しております。責任保証書付きのキャリーを是非一度、お手にとってごらん下さい。



危害防止安全装置を施しているラケットは、いつもプレイヤーの安全をお守りしております。

●キャリー7Sステップ付シャフトフレームのみ ¥3,500
●キャリー7Gストレートシャフトフレームのみ ¥2,500

メトロレジャー株式会社

東京都千代田区外神田5-6-4 TEL. 833-3661(代)



空港特別室で初の記者会見

Photo Diary

The 2nd International
Lady's Badminton Matches
Japan vs. Europe

Jan. 25～Feb. 7

到着　羽田空港で 左からツェドベリ，バンビューセコ… A・フリント



内外の美女に囲まれ本田会長もご満悦



さてこの次は何をたべようかな



5連戦の対決で健斗を誓うツェドベリと湯木



卓上の珍味もあっという間に消えていく

これまでに来日した外人勢の例にもれず、今度の欧州選手たちも、みな大変に陽気で明るかった。

連戦の疲れで、途中かなり戦力がダウンした場合もあったが、やるべき時はやるという気構えを捨てず、がんばってくれたのはうれしい。ただバンビューセコムを除く人々はすべてミセスとあって、ホームシックにかかった人もいたとか。いや、正しくは〝ハズバンド・シック〟というの



“足長夫人”対話，ギルクス（左）とジズマン





歓迎レセプション



お酒に強いという前評判だったが，みんな飲むのはジュースばかり

だろうが——。

うらやましかったのは、スウェーデン、デンマーク、オランダ、西独と、それぞれ国が違うにもかかわらず、みんな〝英語〟が共通語だったこと。日本の第一線選手の中にも、いろいろ〝できる〟人はいるが、まだ一般的な傾向とはいえない。すべからく、ヘタでも度胸と努力で、話し合えるようになってほしい。それが〝国際試合〟の一つの目的でもあるのだから。

にいっぱいの
スムード



，礼宮様もお成り



ちょっと背中がきつそうね——ショッピング





コートサイドにはユ杯をしのぐカメラマンが集まった

コートの内タ
リラック



珍プレーに真面目な日本チームも笑いくずれる


ねえ，またドルが下がったって…試合どころの騒ぎじゃないわ


遠来のスター達はどこへ行ってもファンに囲まれた


最終戦の東京には美智


どうして日本がヨーロッパより寒いのかしら

レセプション、見学、買物そして練習…一行は、どこへ行っても多忙な行事をこなしみずからも楽しみ、そして日本との親善の実をあげた。必ずしも満足のいくような日程運営ではなかったが、とくに不満も出ず、きっと好印象を持って、短いがエキゾチックな旅を締めくくったことだろう。

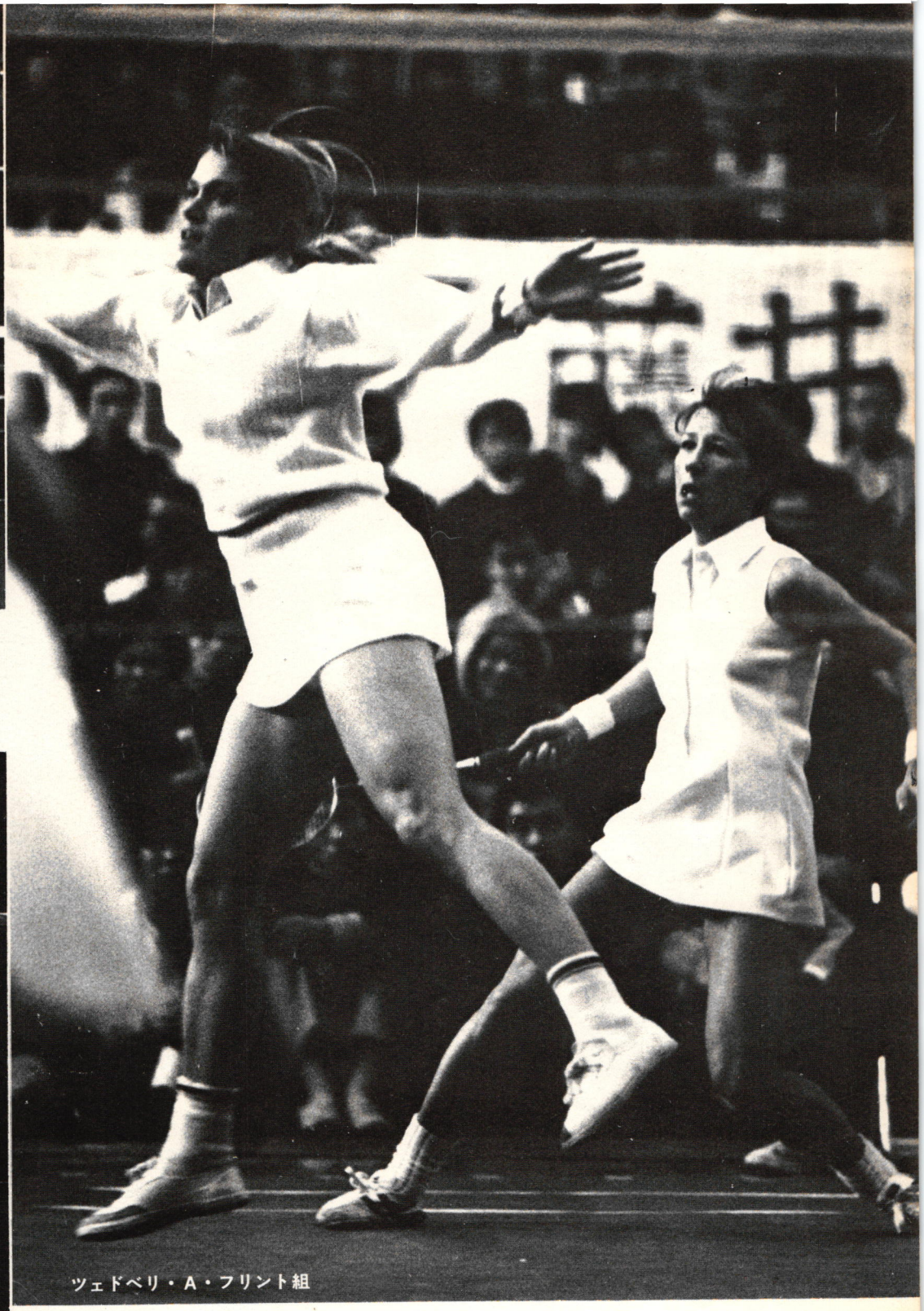
その中で、恐らく彼女らが一番うれしかったことは、美智子様親子のご観戦だったのではないか。王室や貴族制度の伝統、それに対する尊敬と親善の念は、日本人よりも彼女ら西欧人種に根強い。





即席”





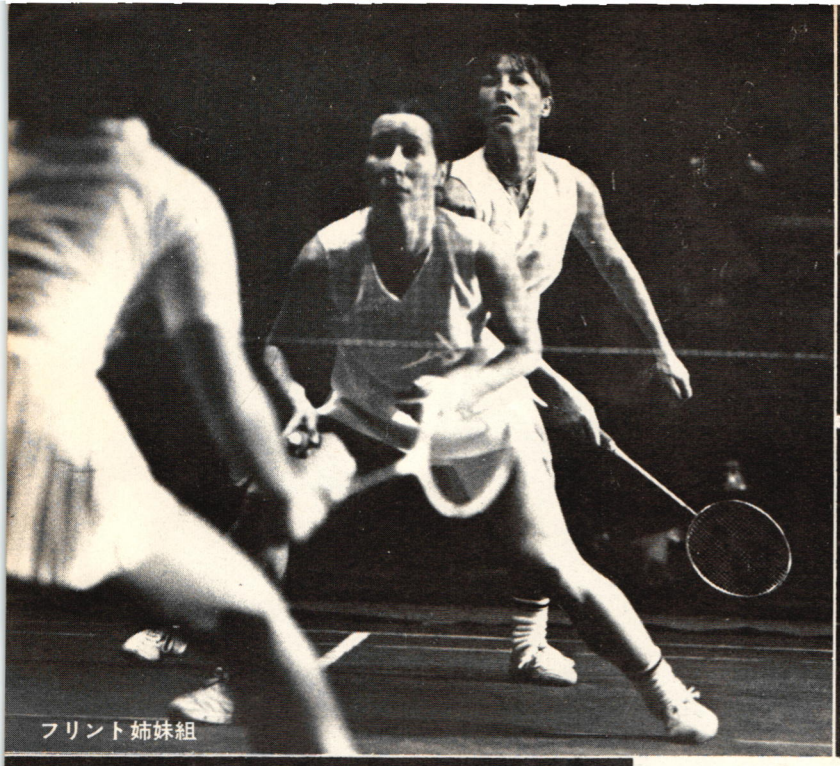
ツェドベリ・A・フリント組

競技面で日本に大きな警鐘を与えたのは、欧州選手の即席で組んだダブルスが、実に見事だったことだ。

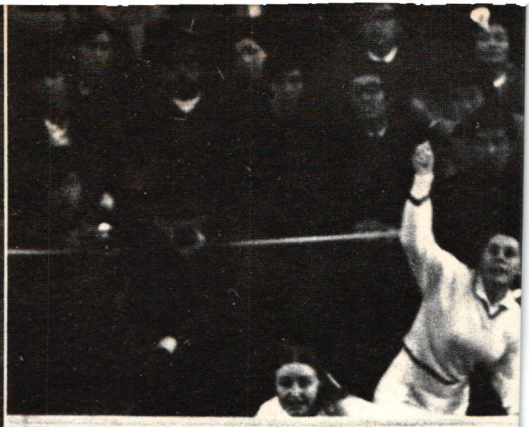
すべての選手に公平な出場をつくろう、ということで、ギルクス、ジズマン、バンビューセコムの三人は、毎回のように違った相手と組んだりシングルスにも出たりで目まぐるしい活躍。にもかかわらず「練習？三十分だけやったわ」でも、日本の誇る〝世界ペア〟相沢・竹中組を始め、多くのダブルスをキリキリ舞いさせた。

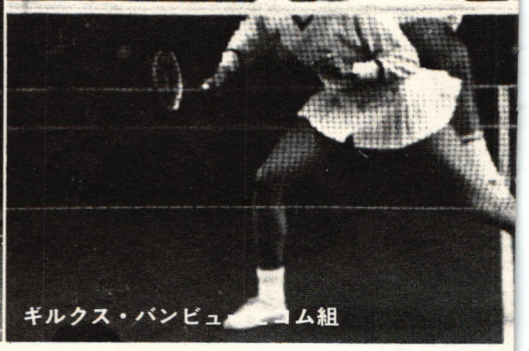
フリント姉妹も、双生児とはいえ、空白五年ののち、今回は来日するために久しぶりに組んだペアだし、ツェドベリでさえ〝代打〟としてフリント姉と組んで、うまいプレーをみせた。

なぜ？　このことは本文にもくわしいが、さらに次号で解説するつもり。



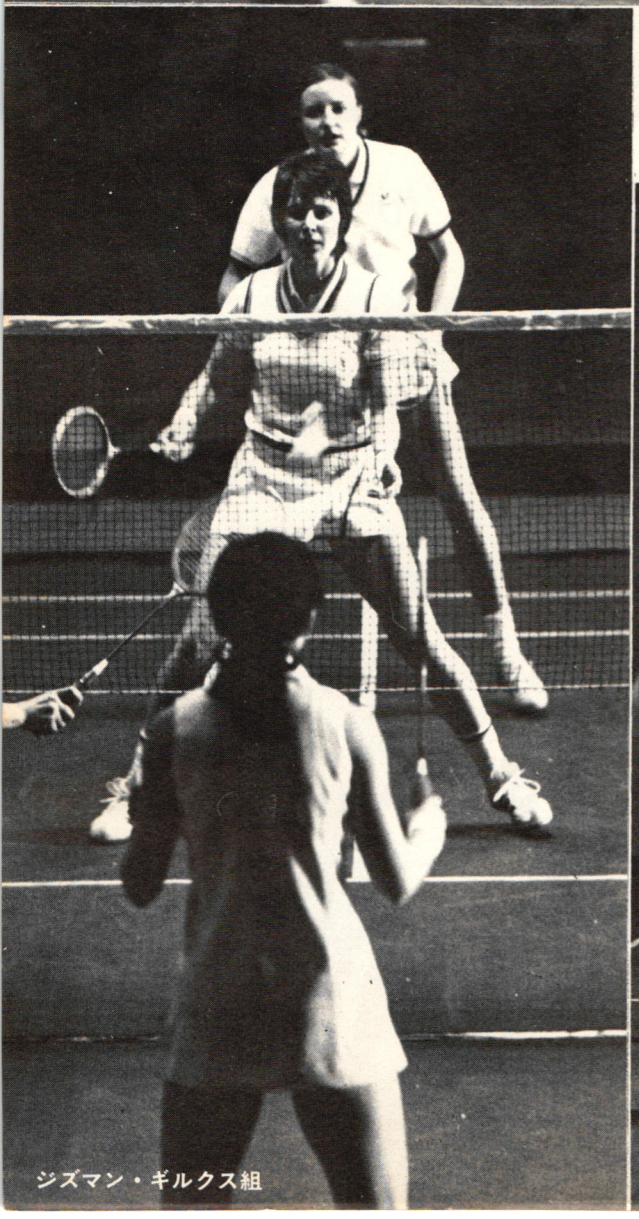
フリント姉妹組



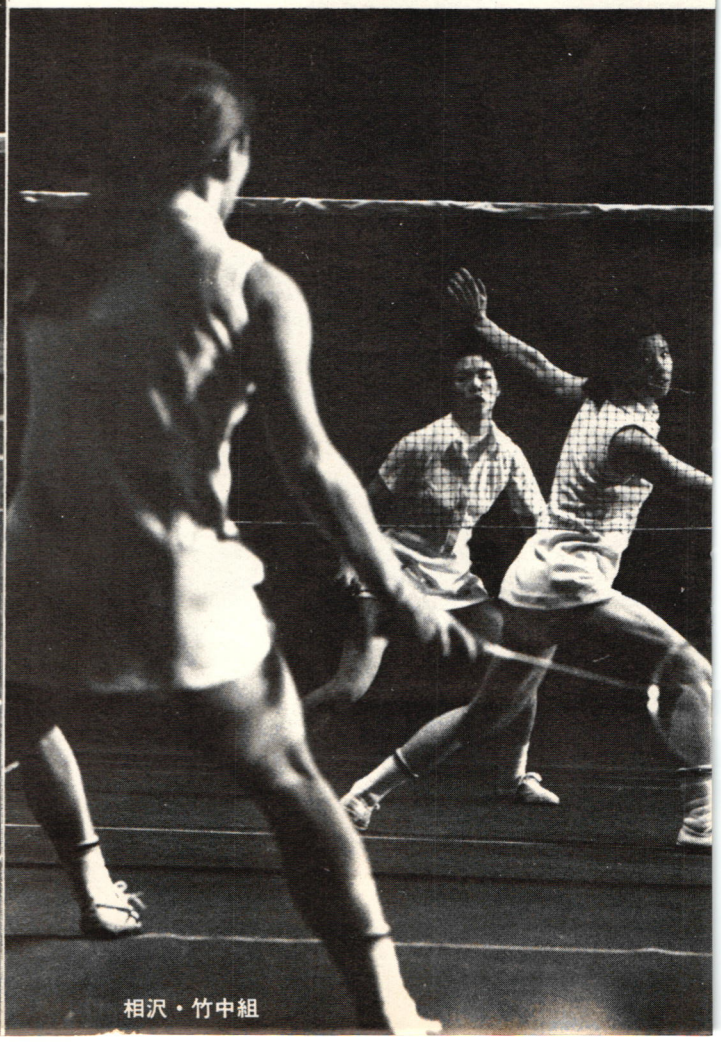


ギルクス・バンビュ[illegible]ム組

“世界ペア”悩ました欧州の



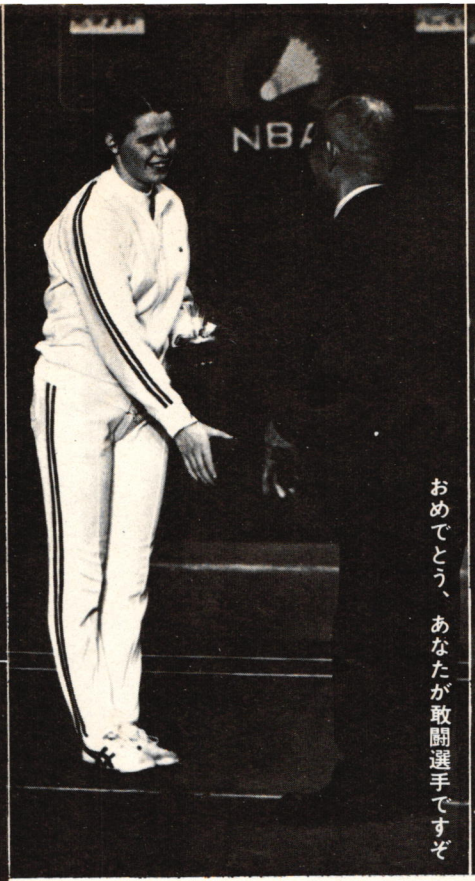
ジズマン・ギルクス組



相沢・竹中組



最終戦では、ごらんのように、



おめでとう、あなたが敢闘選手ですぞ



えー、ツェドベリさんに5連勝の感想は？



スポットをあびて一人一人の選手が紹介された

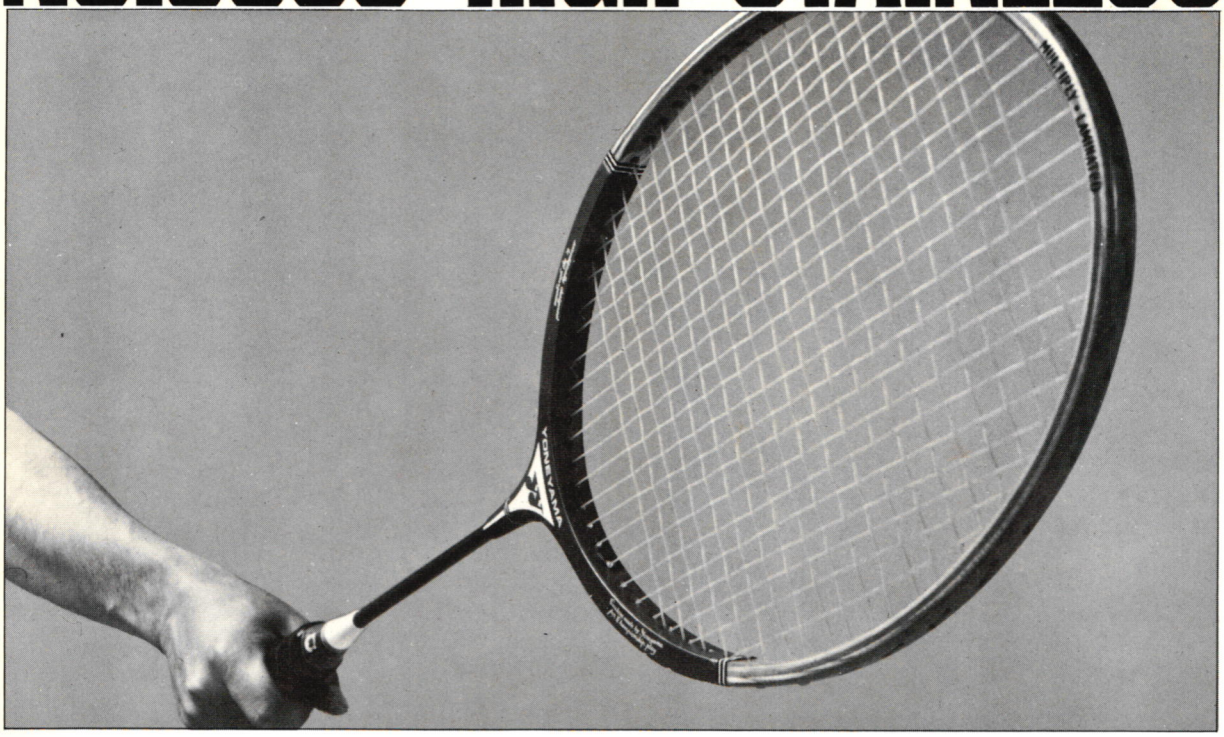
A Farewell to Japan





競技におくわしい妃殿下は，新人選手にもやさしくお言葉をかけられた

No.9000 HIGH STAINLESS



未知のちからを隠しもつ

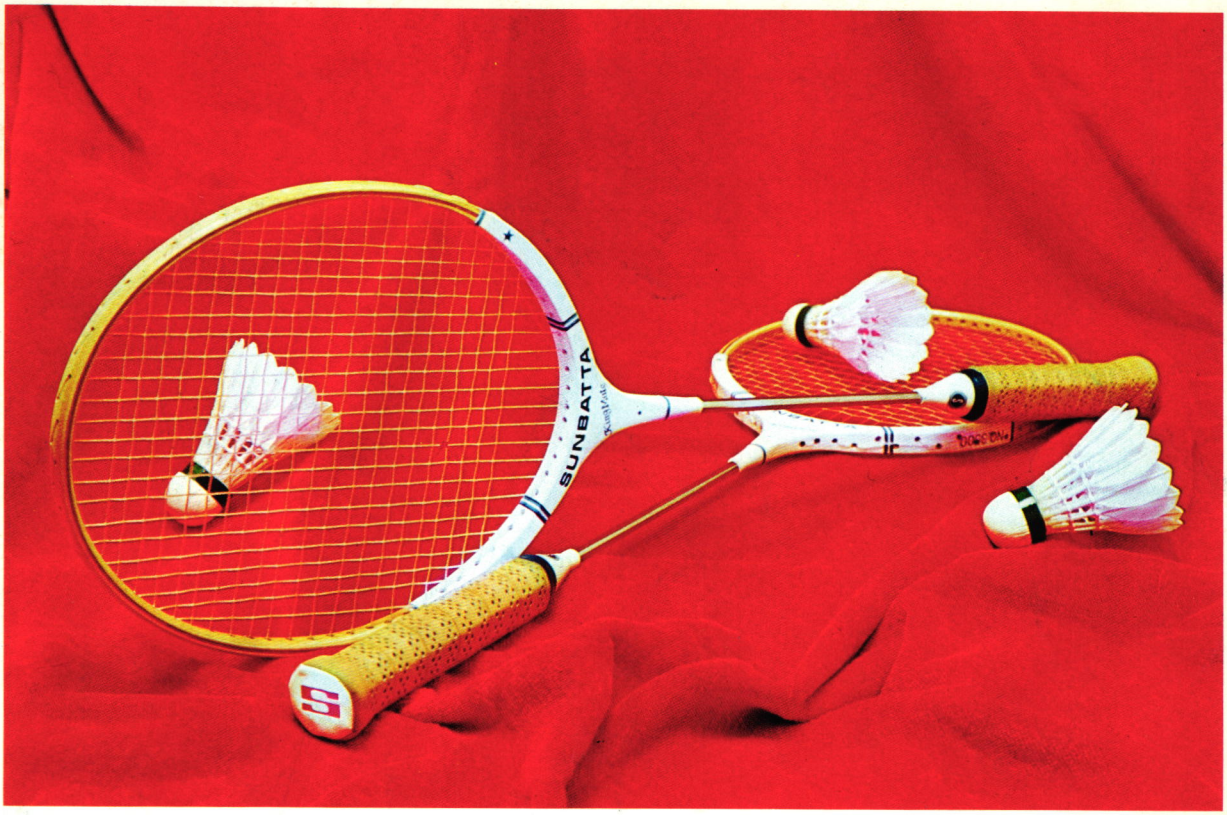
ステンレスのシャフト

しぶとい弾力。まったく鋭い切れ味。瞬間に炸裂する攻撃力。いままでのバドミントンラケットでは、とても出せなかった鮮烈なパワーです。シャフトにステンレスの特性を生かしきってありますから、難度の高いテクニックも思いのまま。これぞ、バドミントンを科学するヨネヤマの、新しい自信作です。その名をハイステンレス。その真価は、世界に点在する一流プレイヤーたちに問いたい。

No.9000ハイステンレス/¥3,800(フレームのみ)

ヨネヤマラケット

月刊「バドミントン界」第1号　昭和四十八年二月一日発行（毎月一回一日発行）



NO.3500 KING MATE SunBatta STRAIGHT PIPE

究明され！
完成された！
BADMINTON RACKET AND SHUTTLE COCK

力学的観点から最新の技術を導入し完成されたラケット。耐久性、飛行距離そしてⅠグレーンのカベを究明されたシャトルコック。

プレーヤーの一挙手一動を観察し対話を続け、プレーヤーが何を求めているか、どのような製品を必要としているかを究明し完成させてまいりました。

国際大会及び国内大会、これらに参加すべく一時の暇もおしみ練習を重ねているプレーヤーの皆様に安心して御使用いただける製品を提供するよう日夜努力を致しております。

SunBatta TOKYO

サンバタ